

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
51	土師質土器	高群高台付椀	60	14.2	8.3	6.0	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
52	土師質土器	高台付椀	10			(2.1)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
53	土師質土器	高台付椀	10			(1.5)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
54	土師質土器	高台付椀	10			(2.5)	石英・鉄粒子	普通	にぶい橙色	ローム台地
55	土師質土器	高台付椀	10			(1.0)	角閃石・軽石・石英	普通	にぶい黄褐色	利根川
56	灰釉陶器	高台付皿	20		6.3	(2.8)	石英	普通	灰白色	高台直0.5mの北
57	土師質土器	羽釜	5			(7.0)	角閃石・軽石	普通	にぶい黄褐色	利根川
58	須恵器	甕	5	25.1		(7.1)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企
59	土師器	甕	10	21.6		(14.1)	角閃石・軽石	普通	にぶい黄褐色	利根川
60	土師器	甕	5	23.3		(5.8)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
61	土師器	甕	5	22.3		(7.7)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川
62	土師器	甕	5	21.0		(9.2)	角閃石・軽石	普通	にぶい橙色	利根川

第113表 5次第4号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	皿	10	15.6	(6.1)	(3.0)	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
2	須恵器	蓋	5			(1.2)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企

と考えたい。

5次第4号溝跡 (第252図)

調査区の西端、H-7グリッドから東に向かい直線的に流れた。N-5グリッドで5次第5号溝跡と重複するが、その先は、検出できなかった。5次第118号溝跡、5次第110号溝跡、5次第85号溝跡、5次第26号溝跡と重複し、もっとも古い。また、5次第6号掘立柱建物跡、5次第11号掘立柱建物跡、5次第8号掘立柱建物跡、5次第19号掘立柱建物跡と重複し、それらより古い。

埋土中から土器片が出土した。1は、土師器の皿である。2は、須恵器の蓋である。ボタン状の摘みがつく。なお、5次第8号掘立柱建物跡P8から出土した。須恵器の蓋 (第182図2) は、本遺構に埋没していた。土器が、掘立柱建物の建設によって、柱穴内へ混入したと考えたい。

本溝跡は、皿沼西I期に先行する7世紀末から8世紀初頭にかけて開削され、同IV期、8世紀第Ⅲ四半期までは存在していたと考えられる。

5次第5号溝跡 (第242・253～258図)

調査区の西端、H-6グリッドから北東に向かって流れ、M-5グリッドで大きく南東に流れを

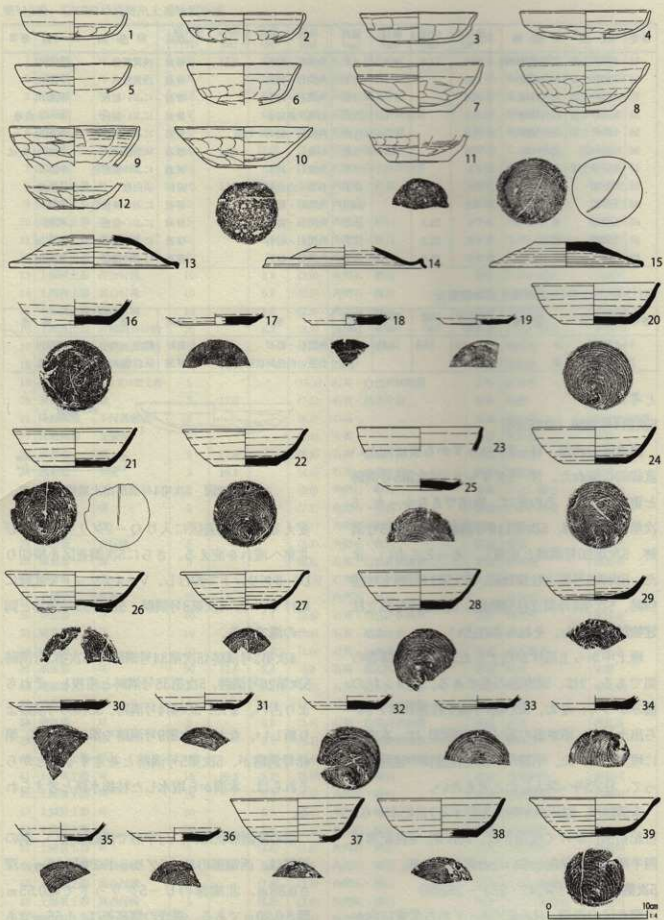


第252図 5次第4号溝跡出土遺物

変える。4次調査区に入りQ-9グリッドで再び北東へ流れを変える。さらに5次調査区を横切り、U-6グリッドで蛇行し、V-4グリッドで北壁にぬけていく。4次第8号溝跡、5次第33号溝跡と同一の溝である。

4次第3号溝跡 (5次第34号溝跡)、5次第3号溝跡、5次第26号溝跡、5次第35号溝跡と重複し、それらより古い。また、5次第4号溝跡、5次第6号溝跡より新しい。なお、5次第9号溝跡や第30号溝跡、第48号溝跡が、5次第5号溝跡と並走することから、それらは、本溝から取水した枝線水路と考えられる。

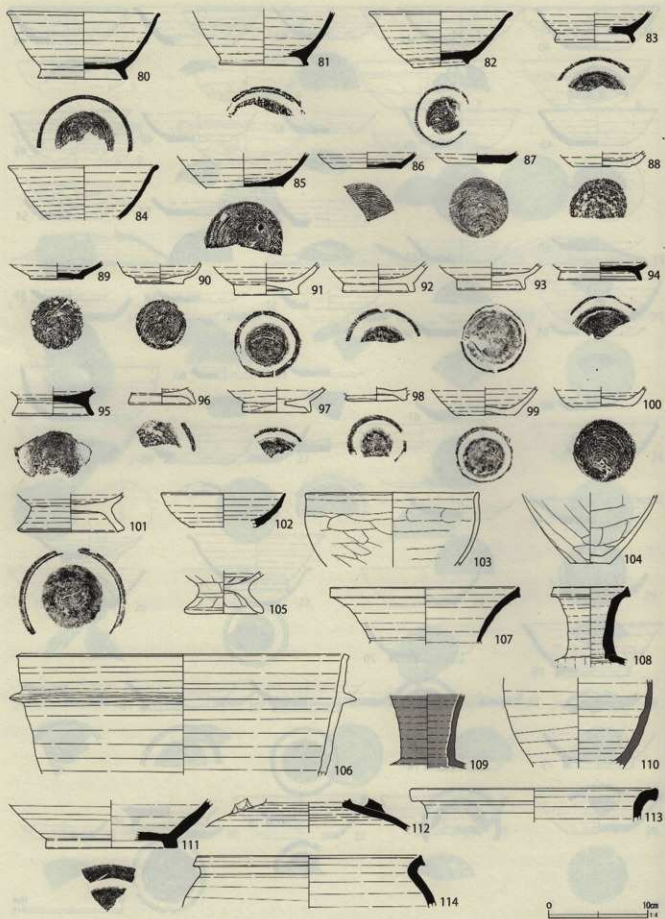
溝の断面形状は、「V」字形で溝底は狭い。溝の規模は、西端部のH-6グリッドで幅2.18m、深さ0.88m、北端部のU-5グリッドで幅0.55m、深さ0.20mである。溝底の標高差は、1.55cmである。



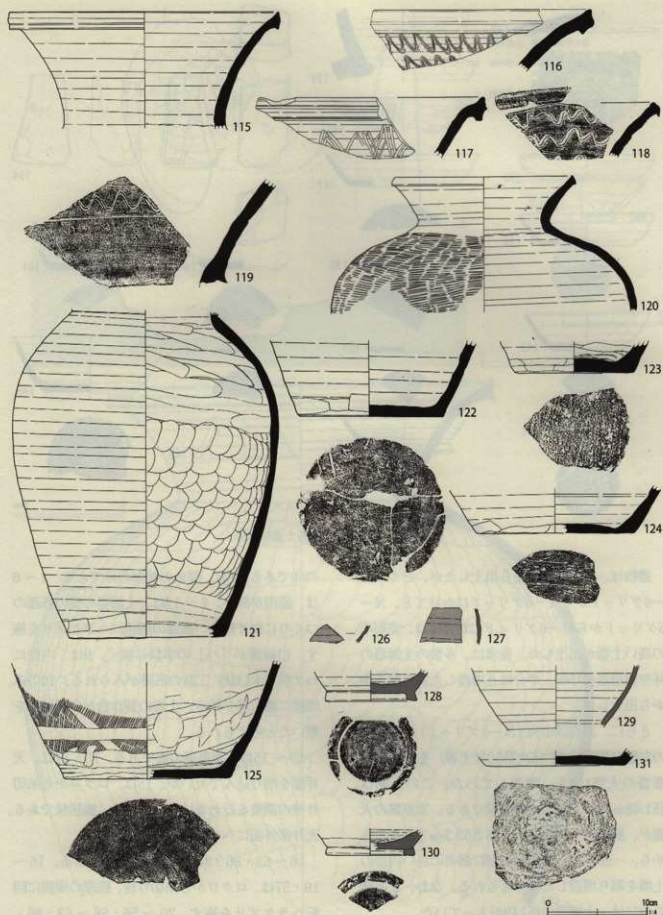
第253图 5次第5号溝跡出土遺物 (1)



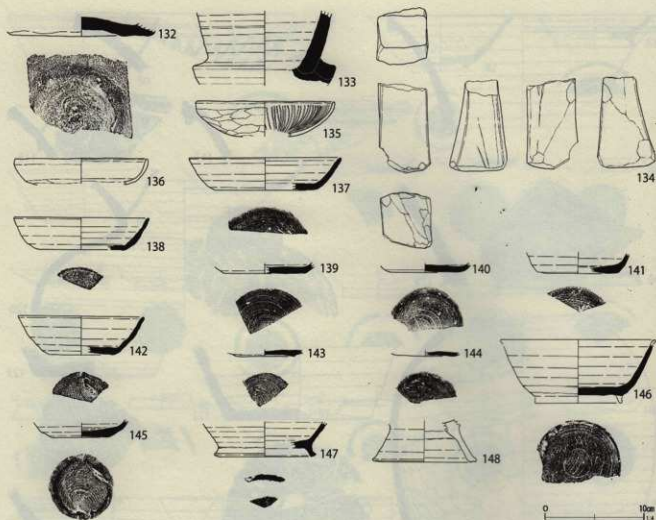
第254图 5次第5号清跡出土遺物 (2)



第255图 5次第5号满跡出土遺物 (3)



第256图 5次第5号清跡出土遺物 (4)



第257図 5次第5号溝跡出土遺物 (5)

遺物は、溝の埋土中から出土したが、とくにH-6グリッドからJ-6グリッドにかけてと、N-5グリッドからO-6グリッドにかけては、完形率の高い土器が出土した。後者は、多数の土師器の坏や須恵器の坏が、半分ほど埋没した溝の埋土中から出土した。

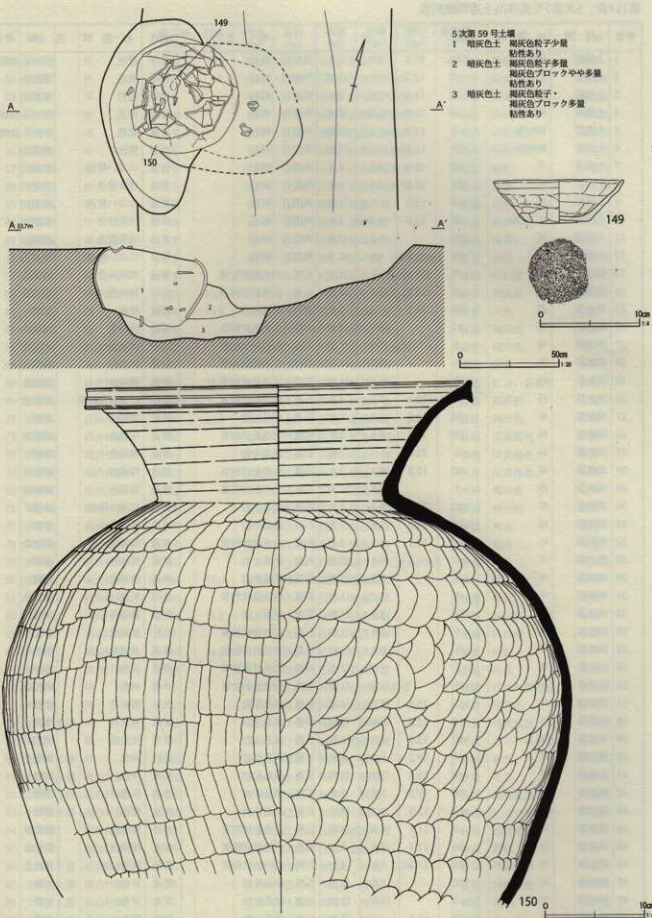
さらに、調査区中央(N-6グリッド)では、溝の右壁に円形土坑(5次第59号土坑)を掘り、須恵器の大甕150を、埋設していた。この土坑は、径1.08m、深さ0.45mの土坑である。須恵器の大甕が、胴部最大径57.3cm、高さ53.2cmであることから、一部埋没した溝の右壁に都合の良い円形の土坑を掘り埋設したと考えられる。なお、この甕の中には、土師器の坏149が入っていた。

1~12は、土師器の坏である。1~5は、碗形

の坏である。6は、深めの碗形の坏である。1~6は、器肉が薄い。7~12は、土師器の甕の底部のつくりに似て厚い。底部の周辺にヘラケズリを施す。口縁部が「ハ」の字状に開く。9は、内面にハケ状(木口状)工具の痕跡がみられる。10のみ、底部に離れ砂が残る。土器の製作台との間に砂を敷いたと考えられる。

13~15は、須恵器の蓋である。13・14は、天井部を削り込んで丸いが、15は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。口縁部は、鶴頸状である。天井部外面にヘラ記号「ノ」がある。

16~63・86・87は、須恵器の坏である。16~19・57は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。20~56・58~63・86・87は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。



第258図 5次第5号溝跡出土遺物 (6)

第114表 5次第5号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	碗形杯	10	10.5	4.8	2.7	角閃石・輝石	良好	橙色	ローム台地
2	土師器	碗形杯	10	12.3		(3.0)	角閃石・輝石	普通	橙色	利根川
3	土師器	碗形杯	10	11.7	7.9	3.1	角閃石・輝石	良好	橙色	利根川
4	土師器	碗形杯	10	12.9	(6.0)	(2.8)	角閃石・輝石	普通	橙色	ローム台地
5	土師器	碗形杯	5	11.5		(3.0)	角閃石・輝石	普通	橙色	ローム台地
6	土師器	碗形杯	20	11.2		(4.2)	角閃石・輝石	普通	橙色	利根川
7	土師器	杯	20	12.8	6.5	4.9	角閃石・輝石	普通	にぶい橙色	利根川
8	土師器	杯	60	12.8	5.5	5.0	角閃石・輝石	普通	浅黄橙色	利根川
9	土師器	杯	10	12.9		(4.2)	角閃石・輝石	普通	にぶい橙色	利根川
10	土師器	杯	80	13.6	6.3	4.0	角閃石・輝石	普通	浅黄橙色	利根川
11	土師器	杯	10		5.8	(2.9)	角閃石・輝石	普通	浅黄橙色	利根川
12	土師器	杯	20		4.9	(2.7)	角閃石・輝石	普通	にぶい橙色	利根川
13	須恵器	蓋	20	(16.8)		(3.4)	石英・白色針状物質	普通	明褐色	南比企
14	須恵器	蓋	10	(16.3)		(2.2)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
15	須恵器	蓋	80	15.2		2.5	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
16	須恵器	杯	10		7.0	(2.4)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
17	須恵器	杯	5		(7.0)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
18	須恵器	杯	5		(6.7)	(1.0)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
19	須恵器	杯	5		(6.3)	(1.0)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
20	須恵器	杯	90	12.6	7.0	4.2	石英・白色針状物質	良好	にぶい黄褐色	南比企
21	須恵器	杯	20	12.2	6.9	3.8	石英・結晶片岩	良好	黒褐色	末野
22	須恵器	杯	100	12.2	6.1	3.7	石英・白色針状物質	普通	灰黄色	南比企
23	須恵器	杯	5	12.5		(2.6)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
24	須恵器	杯	60	12.2	6.4	3.7	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
25	須恵器	杯	5		5.7	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
26	須恵器	杯	20	13.7	6.7	4.1	石英・結晶片岩	普通	にぶい褐色	末野
27	須恵器	杯	20	12.5	(5.8)	(3.8)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
28	須恵器	杯	40	12.1	6.1	3.9	石英・白色針状物質	普通	暗褐色	南比企
29	須恵器	杯	5		6.5	(2.5)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
30	須恵器	杯	5		7.6	(1.0)	石英・結晶片岩	普通	黄灰色	末野
31	須恵器	杯	5		(5.6)	(1.8)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
32	須恵器	杯	10		6.0	(1.5)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
33	須恵器	杯	5		5.8	(1.3)	石英・白色針状物質	良好	黄灰色	南比企
34	須恵器	杯	5		6.6	(1.4)	石英・白色針状物質	普通	黄灰色	南比企
35	須恵器	杯	5		(6.0)	(1.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
36	須恵器	杯	5		(6.4)	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
37	須恵器	杯	10	13.3	(7.3)	(4.4)	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	末野
38	須恵器	杯	10	12.5	(6.9)	(3.9)	石英・結晶片岩	普通	黄灰色	末野
39	須恵器	杯	90	12.8	5.8	3.9	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野
40	須恵器	杯	20	12.2	5.8	4.4	石英・結晶片岩	良好	灰色	末野
41	須恵器	杯	40	12.6	(5.9)	(3.8)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
42	須恵器	杯	20	11.3	5.9	3.2	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
43	須恵器	杯	10	12.9	(6.7)	(3.9)	石英・結晶片岩	普通	褐色	末野
44	須恵器	杯	10	11.8	(6.4)	(3.8)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
45	須恵器	杯	20	11.7	5.6	3.7	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
46	須恵器	杯	60	11.3	5.6	4.0	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
47	須恵器	杯	10		5.6	(2.3)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
48	須恵器	杯	10		(6.0)	(3.1)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
49	須恵器	杯	20	12.0		(4.4)	石英・結晶片岩	普通	褐色	末野
50	須恵器	杯	5		5.9	(1.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
51	須恵器	坏	5		(5.1)	(2.7)	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
52	須恵器	坏	5		(6.8)	(3.0)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
53	須恵器	坏	5		(6.9)	(1.8)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企
54	須恵器	坏	10		6.0	(2.2)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
55	須恵器	坏	5		(7.2)	(1.2)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企
56	須恵器	坏	5		7.0	(1.5)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企
57	須恵器	坏	5		(7.2)	(1.9)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
58	須恵器	坏	5		(6.0)	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
59	須恵器	坏	5		6.1	(1.1)	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
60	須恵器	坏	10		6.0	(1.1)	石英・結晶片岩	不良	灰黄褐色	木野
61	須恵器	坏	5		4.9	(2.1)	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
62	須恵器	坏	5		5.7	(0.9)	石英・結晶片岩・白色針状物質	普通	灰色	南比企
63	須恵器	坏	5		(5.4)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
64	須恵器	無台碗	20	13.7	7.4	5.5	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
65	須恵器	皿	60	13.2	6.2	2.5	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
66	須恵器	皿	5		5.9	(2.2)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	木野
67	須恵器	高台付皿	5			(1.4)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
68	須恵器	高台付碗	5		(6.8)	(2.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
69	須恵器	高台付碗	10	13.8	(7.2)	(5.4)	石英・結晶片岩	普通	にぶい黄褐色	木野
70	須恵器	高台付碗	10		(7.4)	(4.1)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	木野
71	須恵器	高台付碗	20	13.6	6.5	5.5	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	木野
72	須恵器	高台付碗	20		5.4	(3.0)	石英・結晶片岩	普通	灰黄褐色	木野
73	須恵器	高台付碗	10		(7.0)	(3.6)	石英・結晶片岩	普通	灰黄褐色	木野
74	須恵器	高台付碗	10		(7.4)	(3.7)	石英・結晶片岩	不良	灰黄褐色	木野
75	須恵器	高台付碗	10		6.7	(3.4)	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	木野
76	須恵器	高台付碗	5		8.2	(3.1)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	木野
77	須恵器	高台付碗	5		6.9	(2.0)	石英・結晶片岩	普通	褐色	木野
78	須恵器	高台付碗	5		5.9	(1.5)	石英・結晶片岩	普通	褐色	木野
79	須恵器	高台付碗	10		7.5	(2.0)	石英・結晶片岩・白色針状物質	普通	灰色	南比企
80	須恵器	高台付碗	40	15.0	8.9	6.8	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	木野
81	須恵器	高台付碗	10		(8.8)	(5.5)	石英・結晶片岩	普通	褐色	木野
82	須恵器	高台付碗	70	14.2	5.5	5.5	石英・結晶片岩	普通	灰白色	木野
83	須恵器	高台付碗	5		(7.6)	(3.3)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	木野
84	須恵器	高台付碗	10	14.8		(5.6)	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
85	須恵器	高台付碗	20			(3.4)	石英・結晶片岩	普通	灰色	木野
86	須恵器	坏	5		6.8	(1.7)	石英・白色針状物質	普通	にぶい黄褐色	南比企
87	須恵器	坏	10		6.0	(1.2)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	木野
88	土師質土器	坏	5		5.5	(1.6)	角閃石・軽石	不良	浅黄褐色	利根川
89	須恵器	皿	10		5.2	(1.7)	石英・結晶片岩	普通	にぶい黄褐色	木野
90	土師質土器	坏	10		4.7	(2.2)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
91	土師質土器	高台付碗	10		6.4	(3.2)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
92	土師質土器	高台付碗	5		7.0	(3.0)	角閃石・軽石	良好	浅黄褐色	利根川
93	土師質土器	高台付碗	10		6.6	(2.6)	角閃石・軽石	普通	にぶい黄褐色	利根川
94	須恵器	高台付碗	5		8.2	(1.9)	石英・結晶片岩	普通	浅黄褐色	木野
95	須恵器	高台付碗	5		8.0	(2.8)	石英・結晶片岩	普通	褐色	木野
96	土師質土器	高台付碗	5		6.5	(1.7)	角閃石・軽石・石英	普通	浅黄褐色	利根川
97	土師質土器	高台付碗	5		(6.7)	(2.6)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
98	土師質土器	高台付碗	5		5.2	(1.3)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
99	土師質土器	高台付碗	10			(2.9)	角閃石・軽石	普通	灰白色	利根川
100	土師質土器	高台付碗	10			(2.0)	角閃石・軽石	良好	にぶい黄褐色	利根川

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎上	焼成	色調	備考
101	土師質土器	高脚高台付椀	10		9.5	(4.0)	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
102	須恵器	高脚高台付椀	5	12.3	(6.9)	(3.5)	石英・白色針状物質	良好	橙色	南比企
103	土師器	鉢	10	17.1		(7.3)	角閃石・軽石	普通	にぶい・橙色	利根川
104	土師器	甕	5		3.9	(7.0)	角閃石・軽石	普通	にぶい・黄褐色	利根川
105	土師器	台付甕	5			(4.4)	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川
106	土師質土器	羽釜	5	32.6		(12.3)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
107	須恵器	小型甕	5	18.8		(5.7)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
108	須恵器	フラスコ型土器	10	7.3		(7.9)	石英	不良	にぶい・橙色	猿投
109	灰輪陶器	長頸瓶	5			(7.5)	石英	普通	灰白色	猿投
110	灰輪陶器	長頸瓶	5			(8.9)	石英	普通	灰白色	猿投
111	須恵器	長頸瓶	5		(13.1)	(4.9)	石英	良好	黄灰色	猿投小
112	須恵器	両耳壺	5			(3.4)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
113	須恵器	鉢	5	24.4		(3.4)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
114	須恵器	鉢	5	22.4		(5.2)	石英・結晶片岩	普通	灰黄色	末野
115	須恵器	甕	5	27.0		11.8	石英・軽石・白色針状物質	良好	灰色	南比企
116	須恵器	甕	5			(6.1)	石英・結晶片岩	良好	褐灰色	末野
117	須恵器	甕	5			(6.2)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
118	須恵器	甕	5			(5.5)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
119	須恵器	甕	5			(10.5)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
120	須恵器	甕	5	17.8		(13.7)	結晶片岩	普通	褐灰色	末野
121	須恵器	甕	70		(15.7)	(33.0)	角閃石・結晶片岩	良好	灰白色	末野
122	須恵器	甕	10		14.4	(7.6)	石英・結晶片岩	良好	灰白色	末野
123	須恵器	甕	5		11.8	(3.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
124	須恵器	甕	5		(15.8)	(4.7)	石英・結晶片岩	普通	褐灰色	末野
125	須恵器	甕	10		(16.7)	(11.8)	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
126	灰輪陶器	長頸瓶	5			(1.9)	石英	普通	灰白色	猿投
127	灰輪陶器	長頸瓶	5			(3.6)	石英	普通	灰白色	東濃
128	灰輪陶器	長頸瓶	5		9.0	(3.2)	石英	普通	灰白色	猿投
129	灰輪陶器	長頸瓶	5			(6.3)	石英	普通	灰白色	猿投
130	灰輪陶器	長頸瓶	5		(8.4)	(2.6)	石英	普通	灰白色	猿投
131	須恵器	甕	5		13.7	(1.7)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
132	須恵器	甕	5		13.7	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	にぶい・黄褐色	南比企
133	須恵器	すり鉢	5			(7.5)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
134	石製品	砥石	70	全長 9.0 幅 1.7 厚 5.7 重 230.2g			凝灰岩		黒褐色	
135	土師器	坏	5	13.8		(3.5)	角閃石	良好	橙色	ローマ台地
136	土師器	碗形坏	5	13.2		(2.6)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
137	須恵器	坏	10	15.3	(10.0)	(3.3)	軽石・結晶片岩	普通	灰白色	末野
138	須恵器	坏	5	13.4	(8.5)	(3.3)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
139	須恵器	坏	5		(8.2)	(1.0)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
140	須恵器	坏	5		6.8	(0.9)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
141	須恵器	坏	5		(6.7)	(2.1)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
142	須恵器	坏	10	12.5	(6.4)	(3.9)	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企
143	須恵器	坏	5		(5.8)	(0.6)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
144	須恵器	坏	5		(5.5)	(0.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
145	須恵器	坏	10		5.6	(1.8)	石英・結晶片岩	良好	灰黄褐色	末野
146	須恵器	高台付椀	30			(5.2)	石英	普通	灰白色	静岡・太田
147	須恵器	高台付椀	5		(9.3)	(3.6)	石英・白色針状物質	良好	褐灰色	南比企
148	土師質土器	高脚高台付椀	5		(9.3)	(4.3)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
149	土師器	坏	80	12.8	6.4	4.3	角閃石・軽石・頁岩	普通	にぶい・黄褐色	利根川
150	須恵器	大甕	70	38.5		(52.7)	石英・白色針状物質	良好	灰白色	南比企

21は、底部外面にヘラ記号「ノ」がある。

64は、須恵器の無台碗である。深めの碗でボール状となる。

65・66・89は、須恵器の皿である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。67は、高台が欠損するが、須恵器の高台付皿である。ロクロから糸切り後、底部の周辺に回転ヘラケズリを施す。

68～85・94・95・102は、須恵器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に高台をめぐらす。79は糸切り後、ヘラケズリを施し、高台をめぐらす。

88・90は、土師質土器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。91～93・96～100は、土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に高台をめぐらす。101は、土師質土器の高脚高台付碗である。大振りの碗である。

103は、土師器の鉢である。大振りの鉢である。

104は、土師器の甕である。器壁が厚く、羽釜かもしれない。105は、土師器の台付甕である。

106は、土師質土器の羽釜である。口径の大きい羽釜であることから、甕の可能性も残る。三角形の凸帯が、水平に突出する。残存部に削り込みがみられない。

107は、須恵器の小型甕である。

108は、須恵器のフラスコ型土器である。

109・110は、灰釉陶器の長頸瓶である。111は、須恵器の長頸瓶である。110は、胴部の中位付近まで削り込む。111はロクロから糸切り後、角高台をめぐらす。三点は、猿投窯の製品である。

112は、須恵器の両耳壺である。把手は欠損するが、環状の把手がつくと考えられる。

113・114は、須恵器の鉢である。

115～125・131・132は、須恵器の甕である。116～119は、口縁部に波状文を施した破片である。119は、沈線を引いて段を構成し、波状文を描く。120は、外面に平行線文の叩き目が明瞭に残る。121～125は、胴部が細長い平底の甕であ

る。125・132は、ロクロからの離脱後、調整を行わない。122～124・131は、ヘラケズリを施す。

126～130は、灰釉陶器の長頸瓶である。126・127は、内面に施釉がみられないこと、ロクロ目が粗く残ることから小型の長頸瓶と考えられる。129は、外面の胴下半まで回転ヘラケズリを施す。128・130は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に高台をめぐらす。127は、東濃地方の製品。他は、猿投窯の製品である。

133は、須恵器のすり鉢である。底部が欠損する。直線的に「ハ」の字に開く胴部が、円板状の底部とつく。

134は、凝灰岩製の砥石である。上部が欠損するが、五面に擦痕を確認できる。

第258図149・150は、5次第59号土壌から出土した土器である。底抜けの須恵器大甕150の中に土師器坏149が入っていた。

149は、土師器の坏である。器肉が厚く、「ハ」の字に開く土師器の坏である。外面下端にヘラケズリを施す。底部に離れ砂は無い。

150は、外面に方形無文の叩き痕跡、内面に円形無文の当て具痕跡が、連続してみられる。甕の底部付近は、土壌に埋設する時に穿孔したと考えたい。

第257図135～147は、5次第33号溝跡から出土した遺物である。

135・136は、土師器の坏である。135は、内面に粗い放射状の暗文を施す。136は、碗形の坏である。

137・145は、須恵器の坏である。すべてロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。143・144は糸切りのみである。146・147は、須恵器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、高台をめぐらす。146の底部外面に円形の沈線が圈線状に施される。銅鉤の模倣かもしれない。群馬県藤岡市周辺の製品と考えられる。

第257図148は、3次第8号溝跡から出土した遺物である。148は、土師質土器の高脚高台付碗である。

本溝跡は、皿沼西Ⅶ期からⅨ期にかけて埋没したと考えられる。しかし、Ⅶ期に遡る遺物も散見することから、開削は、Ⅶ期に行われ、地震復興後のⅥ期に掘り直され、Ⅸ期まで継続したと考えたい。また、東端の5次第33号溝跡は、皿沼西Ⅱ期～Ⅶ期にかけての土器が出土しており、3次第3号溝跡から続く溝と考えておきたい。

ii 枝線水路

枝線水路は、幹線水路から枝分かれした用水路である。検出位置、溝の幅、深さなどは、一覽表を参照していただきたい。なお、枝線水路から出土した遺物を、第259図に一括して掲載した。

3次第3号溝跡

調査区の南西、F-15グリッドから東に向かって流れ、K-15グリッドでさらに5条の枝線水路に分流する。溝の幅が狭いので枝線水路としたが、大堀川から取水した幹線水路かもしれない。3次第14号溝跡と重複し、それより古い。

3次第6・7・8・9・10・15号溝跡

調査区の南西、K-15グリッドで3次第3号溝跡から分流し、北東に向かって流れる。3次第6・8・9号溝跡は、並行して流れるが、3次第7号溝跡は短い。第6号溝跡から流れ、再び同溝へもどる。また、3次第10号溝跡は、10mほど東流した後、3次第15号溝跡となり南へ流れる。

3次第9号溝跡と水溜り状土壌付き溝跡（3次第16・17・19・21～26・29号溝跡）が重複し、それより古い。また、3次第6号溝跡を除き、畝間溝跡と重複し、それより新しい。

なお、3次第10号溝跡の埋土中から須恵器の坏第259図1・2が出土した。1は、ロクロから糸切り後の調整は行わない。また3次第6号溝跡から須恵器の壺3が出土した。底部は上げ底となる。底部の周囲にナデの痕跡を残す。

3次第13号溝跡

調査区の南側、K-16グリッドから確認できる。3次第28号溝跡と同一である。確認面が深く、ど

の溝から取水したか不明である。Q-16グリッドまで東流し、3次第63号溝跡と合流する。3次第6号溝跡と当溝跡が、畝間溝跡群を南北に区画する。また、3次第63号溝跡との間にも畝跡がみられる。

水溜り状土壌付き溝跡（3次第16・17・19・21～26・29号溝跡）が重複し、それより古い。

3次第27号溝跡

調査区の南側、M-15グリッドからP-14グリッドに向かって流れる。3次第3号溝跡から分岐した3条の溝と並行して北東に向かって流れる。畝間溝跡群と重複し、それより新しい。また、水溜り状土壌付き溝跡群と重複し、それより古い。

3次第46号溝跡

調査区の南側、R-15グリッドからQ-16グリッドに向かって流れる。3次第67号溝跡に合流する。東側に4条の畝間溝跡がみられる。

3次第47号溝跡

調査区の南側、K-13グリッドからK-15グリッドに向かって流れる。3次第11号土壌と重複するが、前後関係は不詳である。

3次第64号溝跡

調査区の南側、M-18グリッドからN-18グリッドに向かって流れる。3次第60号溝跡と並行して東流する。

3次第72号溝跡

調査区の南側、M-14グリッドにあり、北東に流れる。流水方向は、3次第47号溝跡と直行する。

3次第82号溝跡

調査区の南側、L-13グリッドから南西に流れ、南端が3次第11号土壌と重複する。流水方向は、3次第47号溝跡と直行する。

4次第7号溝跡

調査区の南側中央、M-13グリッドから東に向かう。O-12グリッドで途切れ、4次第71号溝跡となり、Q-12グリッドで畝間溝跡群と重複する。その後、4次第13号溝跡となり、R-10グリッド

で消滅する。

4次第15号溝跡

調査区の南側中央、O-14グリッドから北東に向かう。Q-12グリッドで直角に折れ、南東に進む。4次第16号溝跡、畝間溝跡と重複し、それより新しい。水溜り状土壌付き溝跡の4次第47号溝跡より古い。

4次第16号溝跡

調査区の南側中央、Q-13グリッドから北東に向かう。T-12グリッドで水溜り状土壌付き溝跡4次第17号溝跡と「T」字形に交わる。

4次第25号溝跡

調査区の南側中央、L-13グリッドからP-9グリッドへ途切れながら進む。3次第2号溝跡から分岐した溝である。4次第26・28・184号溝跡は、同一の溝である。4次第3・4・20号溝跡と重複し、それより古い。

4次第172号溝跡

調査区の南側中央、S-14グリッドに検出した。西側で水溜り状土壌付き溝群と重複する。

5次第6号溝跡

調査区の西側、K-7グリッドからK-2グリッドに向かい北流する。K-6グリッド付近で途切れるが、5次第104号溝跡へ続く。5次第3号溝跡、5次5号溝跡、5次第37号溝跡、5次第7号井戸跡と重複し、それより古い。

埋土中から第259図4～10の土器が出土した。4～6は、土師器の坏である。碗形の坏である。

7・8は、須恵器の坏である。8は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。

9は、須恵器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行い、高台をめぐる。

10は、須恵器の鉢である。底部は欠くが、平底と考えられる。

5次第8号溝跡

調査区の北側、H-6グリッド付近で5次第5号

溝跡から分岐して東へ流れる。K-5グリッドで東へ向かう5次第9号溝跡、5次第27号溝跡と分岐し、5次第8号溝跡は、北東へ向かう。また、同グリッドで同じく北東へ向かう第24号溝跡を分岐する。5次第90・91号溝跡が、同一の溝である。

5次第1号掘立柱建物跡、第2～5号掘立柱建物跡、5次第6号溝跡と重複し、それより新しい。また、5次第3号溝跡と重複し、それより古い。

埋土中から第259図11・12の土器が出土した。11は、須恵器の蓋である。口縁部は小さく突出する。

12は、須恵器の坏である。ロクロから糸切りのみである。

5次第9号溝跡

調査区の北側、K-5グリッドで5次第8号溝跡から分岐して東へ流れ、N-5グリッドで第31号溝跡と合流して北東へ流れる。5次第5号溝跡、5次第29号溝跡とは、並行して東へ向かう。

5次第19号溝跡、5次第26号溝跡と重複し、それより古い。第259図13は、土師器の碗である。深めで大振りの碗である。

5次第24号溝跡

調査区の北側、L-4グリッドで5次第8号溝跡から分岐し、同溝と並行して北東へ流れる。

5次第26号溝跡、5次第30号溝跡と重複し、それより古い。

5次第27号溝跡

調査区の北側、L-4グリッド付近で5次第8号溝跡から分岐すると考えられる。L-4グリッドから東流し、N-4グリッド付近で北東に向かう。5次第30号溝跡が、この溝と同じ場所を流れた。同溝より5次第27号溝跡が新しい。

溝跡の埋土中から第259図14の土器が出土した。土師器の碗形の坏である。

5次第28・29号溝跡

調査区の北側、L-4グリッド付近で5次第8号溝跡から分岐する。5次第9号溝跡、5次第5号溝跡と並行する。O-5グリッドで5次第34・39・

第115表 枝線水路跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	須恵器	坏	5		(6.2)	(2.8)	石英・結晶片岩	普通	灰白色	末野 3次SD10
2	須恵器	坏	5	12.6		(2.6)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD10
3	須恵器	壺	5		9.8	(4.5)	石英・結晶片岩	良好	灰色	末野 3次SD6
4	土師器	碗形坏	5	13.5	(8.9)	(3.0)	角閃石・軽石	普通	にぶい・橙色	利根川 5次SD6
5	土師器	碗形坏	5	12.9		2.9	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川 5次SD6
6	土師器	碗形坏	5	12.6		(3.1)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川 5次SD6
7	須恵器	坏	10	12.3	(6.0)	(3.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野 5次SD6
8	須恵器	坏	10		7.1	(2.0)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD6
9	須恵器	高台付碗	5		(8.9)	(2.2)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD6
10	須恵器	鉢	10	17.9		(10.1)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野 5次SD6
11	須恵器	蓋	10	(17.9)		(2.7)	石英・白色針状物質	良好	灰黄褐色	南比企 5次SD8
12	須恵器	坏	5		6.9	(2.0)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD8
13	土師器	碗	100	15.3	5.1	5.0	角閃石・軽石	良好	橙色	利根川 5次SD9
14	土師器	碗形坏	10	12.2	(10.2)	3.3	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川 5次SD27
15	須恵器	坏	30	12.2	6.2	3.9	石英・白色針状物質	普通	灰白色	南比企 5次SD48
16	須恵器	蓋	10	(17.0)		(3.1)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企 5次SD85
17	須恵器	坏	5		(6.8)	(1.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野 5次SD85
18	須恵器	坏	5		(5.9)	(1.3)	石英・結晶片岩・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD85
19	須恵器	蓋	90	17.8		5.2	石英・結晶片岩	良好	灰白色	末野 5次SD101

40号住居跡と重複し、それ以後は検出できなかった。同住居跡より古い。あるいは、第84号溝跡へ続くのかもしれない。

また、5次第31号溝跡、第10号畝間溝跡群、5次第2号掘立柱建物跡と重複し、それより新しい。5次第26・27号溝跡より古い。

5次第30号溝跡

5次第27号溝跡同様、調査区の北側、L-4グリッド付近で5次第8号溝跡から分岐する。L-4グリッドから東流し、N-4グリッド付近で北東に向かう。5次第27号溝跡より古い。

5次第31号溝跡

調査区の北側中央、N-5グリッド付近から北東に向かって直線的に流れる。5次第4号溝跡につながる。

5次第9・29・50・53号溝跡より古い。

5次第41号溝跡

調査区の北側東より、P-4グリッドに検出した。遺構確認面が低かったため、遺構の残存状態は悪く、南側は途切れる。5次第44号溝跡と並行し、北西へ流れる。第48号溝跡につながる。

5次第43号溝跡

調査区の北側東より、S-6グリッドから北に向かって直線的に流れる。遺構の残存状態は悪く、南側は途切れる。5次第44号溝跡と重複し、それより古い。

5次第44号溝跡

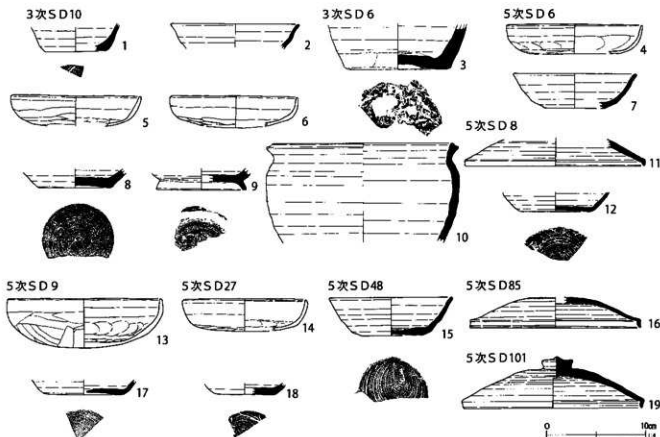
調査区の北側東より、T-5グリッドから北に向かって直線的に流れる。遺構の残存状態は悪く、南側は途切れる。5次第33号溝跡につながるかもしれない。5次第43・45号溝跡と重複し、それより新しい。

5次第45号溝跡

調査区の北側東より、T-4グリッドから西に向かって直線的に流れる。東側は途切れる。5次第44号溝跡と重複し、それより古い。

5次第46号溝跡

調査区の北側東より、T-4グリッドから北に向かって直線的に流れる。遺構確認面が低かったため、遺構の残存状態は悪く、東側は途切れる。5次第43号溝跡と並行して流れる。5次第45号溝跡と重複し、それより新しい。



第259図 枝線水路跡出土遺物

5次第48号溝跡

調査区の北側東より、S-8グリッドから北東に向かって流れ、T-7グリッドで北西に向かう。5次第33号溝跡と並行する。始点と終点が、5次第34号溝跡によって壊され明らかなではない。5次第34・35号溝跡と重複し、それより古い。

埋土から第259図15の須恵器の坏が出土した。ロクロから糸切り後調整を施さない。

5次第52号溝跡

調査区の北側東より、S-4グリッドから5次第43号溝跡と並行して北に向かって流れる。

5次第62号溝跡

調査区の東側、Q-8グリッドからS-8グリッドに向かって流れる。東端は5次第34号溝跡、西端は土取りで破壊される。5次第2号住居跡と重複し、それより新しい。

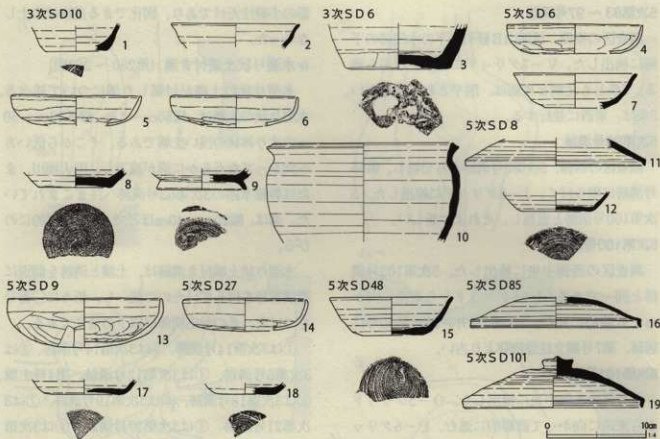
5次第84号溝跡

調査区の北側中央、P-5グリッドからR-4グリッドに向かって流れる。西側は、遺構確認面が低かったため判然としない。5次第11号住居跡、第82・83号溝跡と重複し、それより古い。

5次第85号溝跡

調査区の西辺中央、J-6グリッドから東へ向かって流れ、N-7グリッドより東は、遺構確認面が低く、溝は途切れる。5次第3・4・5・25・26号溝跡、5次第8・12・16号掘立柱建物跡、第19号住居跡と重複し、それより古い。埋土に液状化現象の痕跡がみえる。

埋土層中から第259図16～18の須恵器が出土した。16は、須恵器の蓋である。口縁部が鶏頸状に長く伸びる。17・18は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。



第259図 枝線水路跡出土遺物

5次第48号溝跡

調査区の北側東より、S-8グリッドから北東に向かって流れ、T-7グリッドで北西に向かう。5次第33号溝跡と並行する。始点と終点が、5次第34号溝跡によって壊され明らかではない。5次第34・35号溝跡と重複し、それより古い。

埋土から第259図15の須恵器の坏が出土した。ロクロから糸切り後調整を施さない。

5次第52号溝跡

調査区の北側東より、S-4グリッドから5次第43号溝跡と並行して北に向かって流れる。

5次第62号溝跡

調査区の東側、Q-8グリッドからS-8グリッドに向かって流れる。東端は5次第34号溝跡、西端は土取りで破壊される。5次第2号住居跡と重複し、それより新しい。

5次第84号溝跡

調査区の北側中央、P-5グリッドからR-4グリッドに向かって流れる。西側は、遺構確認面が低かったため判然としない。5次第11号住居跡、第82・83号溝跡と重複し、それより古い。

5次第85号溝跡

調査区の西辺中央、J-6グリッドから東へ向かって流れ、N-7グリッドより東は、遺構確認面が低く、溝は途切れる。5次第3・4・5・25・26号溝跡、5次第8・12・16号掘立柱建物跡、第19号住居跡と重複し、それより古い。埋土に液状化現象の痕跡がみえる。

埋土層中から第259図16～18の須恵器が出土した。16は、須恵器の蓋である。口縁部が鵝頸状に長く伸びる。17・18は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

5次第93～97号溝跡

調査区の東側、浅間山B軽石層下の水田跡の下層に検出した。V-7グリッドにわずかながら残る。5条とも北側と東側は、削平されて残らない。5条は、東西に並行する。

5次第99号溝跡

調査区の西側、5次第5号溝跡から分岐し、第85号溝跡に取り付く。J-6グリッドに検出した。5次第100号溝跡と重複し、それより新しい。

5次第100号溝跡

調査区の西側中央に検出した。5次第103号溝跡と同一である。I-6グリッドから東南に向かって直線的に進む。5次第2号井戸跡、第30号住居跡、第7号掘立柱建物跡より古い。

5次第101号溝跡

調査区の北側中央に検出した。O-5グリッドから東南に向かって直線的に進む。P-6グリッドより南を削平されていた。5次第13号住居跡と重複し、それより新しい。

溝の埋土から須恵器の蓋第259図19が出土した。摘みは、扁平な宝珠状である。天井部は直線的に下る。口縁部は内側に屈曲する。

5次第118号溝跡

調査区の西側中央。I-6グリッドに検出した。

5次第119号溝跡

調査区の西側中央。L-6グリッドに検出した。5次第85号溝跡と第4号溝跡をつなぐように検出した。

iii 小溝

小溝は、幹線水路、枝線水路などの用水路や畝間溝、水溜り状土壌付き溝など畠の耕作痕跡とかかわらない小規模な溝である。個々の性格を限定することは難しいが、遺跡を構成する遺構のひとつである。

小溝の検出位置、幅、深さ等は、古代の溝跡一覧表（118表）を参照していただきたい。

なお、小溝から出土した遺物は、土師器・須恵

器の小破片だけであり、図化できる遺物は出土しなかった。

iv 水溜り状土壌付き溝（第260～263図）

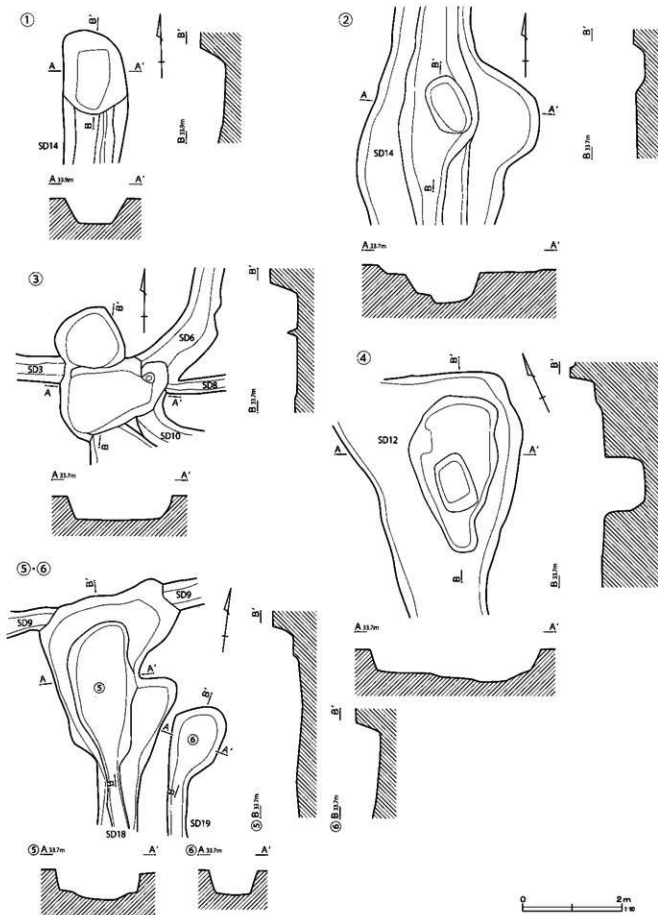
水溜り状の土壌が付属した溝について述べる。水溜り状の土壌は、径50cm～1m、深さ20cm～50cmのすり鉢状の浅い土壌である。そこから低い方へ向かってなだらかに溝が流下し、旧大堀川、または幹線水路の3次第63号溝跡へ注ぎこまれていた。溝は、幅20cm～40cmほどであり、直線的にのびる。

水溜り状土壌付き溝跡は、土壌と溝跡を個別に遺構番号を付していたので統一し、新たに○番号をつけた。その対応関係は以下の通りである。

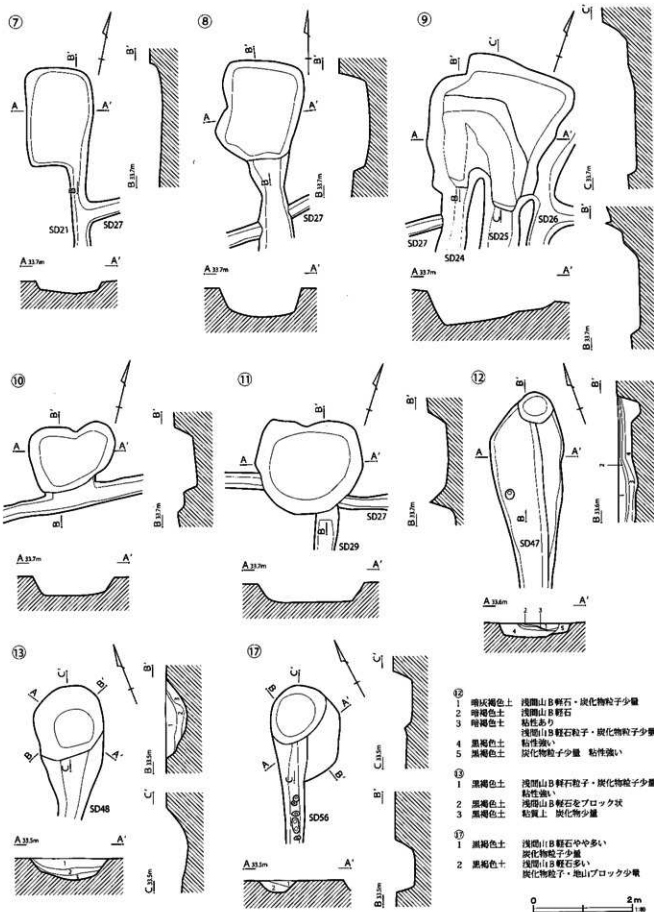
①は3次第14号溝跡、②は3次第14号溝跡、③は3次第6号溝跡、④は3次第12号溝跡、第4号土壌、⑤は3次第18号溝跡、⑥は3次第19号溝跡、⑦は3次第21号溝跡、⑧は3次第27号溝跡、⑨は3次第24・25・26号溝跡、⑩は遺構番号なし、⑪は3次第29号溝跡、⑫は4次第47号溝跡、⑬は4次第48号溝跡、⑭は4次第52号溝跡、第16号土壌、⑮は4次第49号溝跡、第17号土壌、⑯は4次第52号溝跡、第18号土壌、⑰は4次第56号溝跡、⑱は4次第55・60号溝跡、第20号土壌、⑲は4次第19号溝跡、⑳は4次第100号溝跡、㉑は4次遺構番号なし、㉒は4次第14号土壌、㉓は5次遺構番号なし、㉔は5次第40・41号土壌である。

水溜り状土壌付き溝は、単独の溝と複数の溝が集中する二者がみられる。単独の溝は、3次第12・14号溝跡、4次第17・19・100号溝跡、5次第123号溝跡である。4次第19・100号溝跡、5次第123号溝跡は、東へ流れるが、ほかは、南へ流れる。

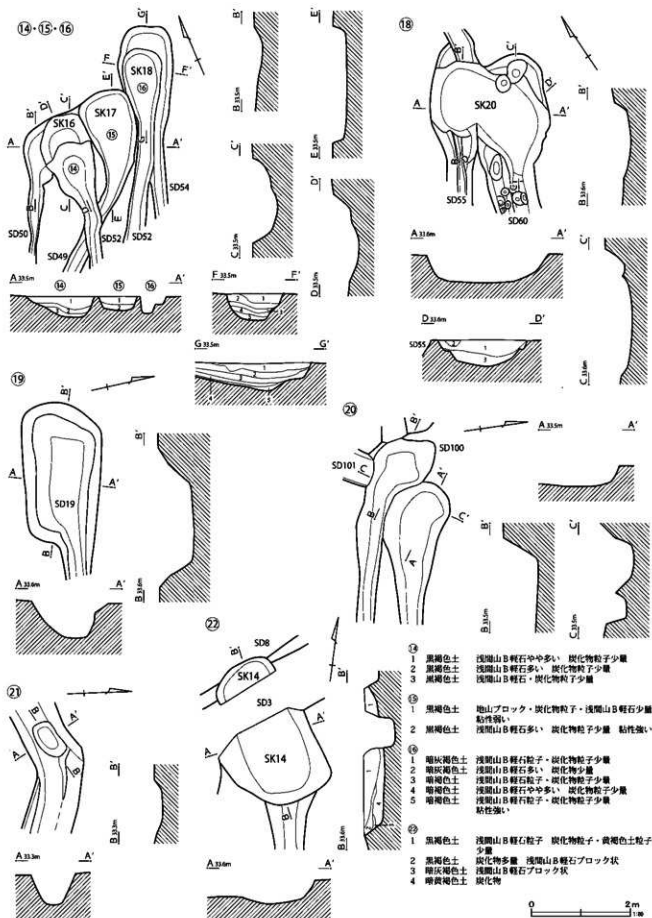
複数の溝が集中する溝は、3次第17・19・21～26・29・31～46号溝跡、4次第47～61号溝跡である。およそ3か所に集中する。(1) 西側の3次第17～19・21～26号溝跡、(2) 東側の3次第29・31～37号溝跡、(3) 東側の3次第39～46号溝跡、4次第47～61号溝跡である。



第260図 水溜り状土盛り溝跡 (1)



第261図 水溜り状土填付き溝跡 (2)



第116表 水溜り状土壌付き溝一覧表

番号	形状	長さ	幅	深さ	方位	備考
血沼西遺跡3次						
1	楕円形	1.69	1.21	0.5	N-24°-W	
2	楕円形	1.2	0.76	0.22	N-31°-W	
3	不正形	2.46	1.32	0.48	N-14°-W	
4	不正形	3.14	1.45	0.97	N-18°-E	
5	不正形	3.36	1.7	0.55	N-14°-W	
6	楕円形	1.48	1.02	0.49	N-21°-E	
7	隅丸長方形	1.98	1.31	0.25	N-6°-W	
8	不正形	2.06	1.48	0.59	N-18°-E	
9	不正形	3.06	2.47	0.69	N-19°-W	
10	不正形	1.76	0.98	0.39	N-52°-E	
11	円形	2.2	1.77	0.4	N-71°-E	
血沼西遺跡4次						
12	—	—	1.39	0.4	—	
13	円形	1.52	1.4	0.44	N-32°-E	SK15
14	楕円形	1.71	0.86	0.42	N-9°-W	SK16
15	楕円形	1.7	0.97	0.29	N-9°-E	SK17
16	楕円形	1.96	1	0.55	N-4°-E	SK18
17	円形	1.38	0.96	0.39	N-65°-E	SK19
18	不正形	2.47	1.43	0.57	N-43°-W	SK20
19	隅丸長方形	2.81	1.51	0.69	N-71°-W	SD19
20	楕円形	2.53	0.62	0.7	N-89°-E	
21	楕円形	0.8	0.45	0.17	N-57°-E	
22	不正形	2.98	1.82	0.43	N-31°-W	
23	楕円形	0.87	0.72	0.3	N-75°-W	
24	不正形	1.95	0.84	0.56	N-56°-E	

なお、3次第39～46号溝跡と、4次第47～61号溝跡は、同一の溝である。

溝の流下先は、①は、M-17グリッド付近で途切れるが、②と③は、Q-16グリッドで合流し、幹線水路の3次第63号溝跡を伝わって大堀川へ流れていた。この水溜り状土壌付き溝間は、重複、または接するように掘削されており、同時に複数の溝を用いたのではない。年替わりに掘削し直したか、埋没を契機に掘り直したと考えたい。

水溜り状土壌付き溝と畝間溝跡群は重複するが、それより新しい。水溜り状土壌と溝の埋土は、一体化しており、土層中位に浅間山B軽石層がみられる。水溜り状土壌の掘り込みは、黒色土層を貫き、黄褐色粘土層の上面で止まっていた。

水溜り状土壌付き溝の土壌について、自然科学分析（花粉分析）を行った。菜種の種子、花粉の出土があった。詳細は、V-1を参照願いたい。

水溜り状土壌付き溝から出土した遺物を第263

図に掲載した。

1～3は、3次第12号溝跡から出土した。1は、土師器の甕である。「く」の字状口縁の甕である。2は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。3は、土師器の香炉蓋である。摘みの部分である。5次第6号井戸跡から出土した土器第207図19と共通するが、穿孔は確認できなかった。

4～8は、3次第14号溝跡から出土した。4・5・7は、須恵器の坏である。4・5は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。7は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。6は、須恵器の長頸壺である。8は、甕の羽口である。

9・10は3次第15号溝跡から出土した。9は土師器の「コ」の字状口縁の甕である。10は土製の紡錘車である。3分の1の破片である。

11は、3次第21号溝跡から出土した。土師器の坏である。皿状の坏である。

12は、3次第25号溝跡から出土した。須恵器の長頸瓶である。頸部が細くすばむことから、水瓶かもしれない。

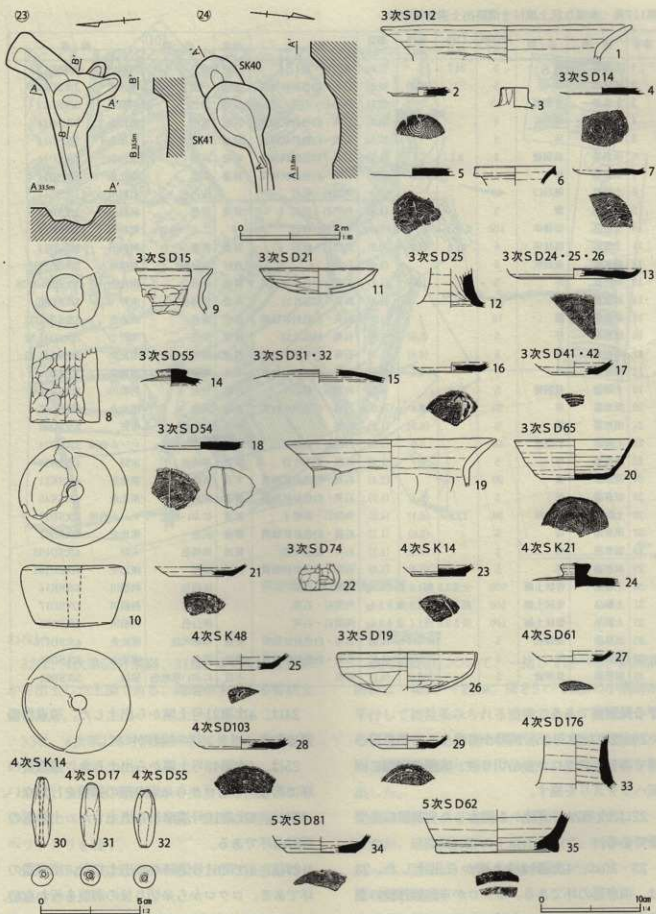
13は、3次第24・25・26号溝跡から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。

14は、3次第55号溝跡から出土した。須恵器の蓋である。ボタン状の摘みがつく。

15・16は、3次第31・32号溝跡から出土した。15は、須恵器の蓋である。扁平な蓋である。16は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

17は、3次第41・42号溝跡から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

18・19は、3次第54号溝跡から出土した。18は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。19は、土師器の甕である。器肉はやや厚く、胴部が直線的に伸



第263図 水溜り状土坑付き溝跡 (4)・出土遺物

第117表 水溜り状土域付き溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	5	24.7		(3.6)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD12
2	須恵器	坏	5		(6.2)	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD12
3	土師器	香炉蓋	10		(2.1)	(2.1)	角閃石・石英	普通	褐色	利根川 3次SD12
4	須恵器	坏	5		7.1	(0.6)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企 3次SD14
5	須恵器	坏	5		7.0	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
6	須恵器	長頸壺	5	8.1		(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
7	須恵器	坏	5		5.8	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
8	土製品	縄文口	40				角閃石・軽石		灰白色	利根川 3次SD14
9	土師器	甕	5			(4.4)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD15
10	土製品	紡錘車	100	直径5.4 厚さ3.1 重さ33.9g			角閃石・軽石		にぶい・褐色	利根川 3次SD15
11	土師器	皿状坏	5	11.8	(3.0)	(2.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD21
12	須恵器	長頸瓶	5			(4.0)	石英	良好	灰白色	東海地方 3次SD25
13	須恵器	坏	5		(10.3)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD24・25・26
14	須恵器	蓋	10			(1.8)	石英・結晶片岩	不良	灰褐色	末野 3次SD55
15	須恵器	蓋	10			(1.3)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企 3次SD31・32
16	須恵器	坏	5		(5.6)	(1.0)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野 3次SD31・32
17	須恵器	坏	5		(4.6)	(1.4)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD41・42
18	須恵器	坏	5		6.5	(0.9)	石英・白色針状物質	不良	明褐色	南比企 3次SD54
19	土師器	長胴壺	5	21.0		(4.9)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD54
20	須恵器	坏	30	11.8	6.4	4.0	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD65
21	須恵器	坏	5		(6.3)	(1.2)	石英	不良	灰白色	末野 3次SD65
22	土師器	小型壺	60		3.0	(2.8)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい・褐色	ローム台地 3次SD74
23	須恵器	坏	5		5.7	(1.2)	石英・結晶片岩	普通	黒褐色	末野 4次SK14
24	須恵器	蓋	20			(2.4)	石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企 4次SK21
25	須恵器	坏	5		(6.1)	(1.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SK48
26	土師器	碗形坏	20	13.8	(6.1)	(4.0)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい・褐色	ローム台地 4次SD19
27	須恵器	坏	5		(5.6)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SD61
28	須恵器	坏	5		(7.1)	(1.1)	石英・結晶片岩	普通	黒褐色	末野 4次SD103
29	須恵器	坏	5		(5.3)	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SD103
30	土製品	管状土錘	100	全長3.5 幅1.0 重さ3.0g			角閃石・石英		灰白色	利根川 4次SK14
31	土製品	管状土錘	100	長さ3.2 径1.0 重さ3.4g			角閃石・石英		灰褐色	利根川 4次SD17
32	土製品	管状土錘	100	長さ2.9 径1.1 重さ3.4g			角閃石・石英		灰白色	利根川 4次SD55
33	須恵器	長頸瓶	5			(5.4)	石英・白色針状物質	普通	明褐色	南比企 4次SD176
34	須恵器	坏	5		(7.0)	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD81
35	須恵器	長頸壺	5		(12.0)	(4.1)	石英	不良	にぶい・黄褐色	磯投 5次SD62

びる長胴甕である。

20・21は3次第65号溝跡から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。

22は3次第74号溝跡から出土した土師器の小型壺である。

23・30は、4次第14号土域から出土した。23は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。30は、土錘である。両端がすばまる管状土錘である。

24は、4次第21号土域から出土した。須恵器の蓋である。ボタン状の摘みがつく。

25は、4次第48号土域から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

26は、4次第19号溝跡から出土した。土師器の碗形の坏である。

27は、4次第61号溝跡から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

28・29は、4次第103号溝跡から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行

第117表 水溜り状土塊付き溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	5	24.7		(3.6)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD12
2	須恵器	環	5		(6.2)	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD12
3	土師器	香炉蓋	10		(2.1)		角閃石・石英	普通	褐色	利根川 3次SD12
4	須恵器	環	5		7.1	(0.6)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企 3次SD14
5	須恵器	環	5		7.0	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
6	須恵器	長頸壺	5	8.1		(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
7	須恵器	環	5		5.8	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
8	土製品	轆轤口	40				角閃石・軽石		灰白色	利根川 3次SD14
9	土師器	甕	5			(4.4)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD15
10	土製品	紡錘車	100	直径 5.4 厚さ31 重さ33.9g			角閃石・軽石		にぶい・褐色	利根川 3次SD15
11	土師器	皿状環	5	11.8	(3.0)	(2.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD21
12	須恵器	長頸瓶	5			(4.0)	石英	良好	灰白色	東海地方 3次SD25
13	須恵器	環	5		(10.3)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD24-25-26
14	須恵器	蓋	10			(1.8)	石英・結晶片岩	不良	灰褐色	末野 3次SD55
15	須恵器	蓋	10			(1.3)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企 3次SD31-32
16	須恵器	環	5		(5.6)	(1.0)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野 3次SD31-32
17	須恵器	環	5		(4.6)	(1.4)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD41-42
18	須恵器	環	5		6.5	(0.9)	石英・白色針状物質	不良	明褐色	南比企 3次SD54
19	土師器	長胴壺	5	21.0		(4.9)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川 3次SD54
20	須恵器	環	30	11.8	6.4	4.0	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD65
21	須恵器	環	5		(6.3)	(1.2)	石英	不良	灰白色	末野 3次SD65
22	土師器	小型壺	60		3.0	(2.8)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい・褐色	ローム台地 3次SD74
23	須恵器	環	5		5.7	(1.2)	石英・結晶片岩	普通	黒褐色	末野 4次SK14
24	須恵器	蓋	20		(2.4)		石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企 4次SK21
25	須恵器	環	5		(6.1)	(1.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SK48
26	土師器	碗形環	20	13.8	(6.1)	(4.0)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい・褐色	ローム台地 4次SD19
27	須恵器	環	5		(5.6)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SD61
28	須恵器	環	5		(7.1)	(1.1)	石英・結晶片岩	普通	黒褐色	末野 4次SD103
29	須恵器	環	5		(5.3)	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SD103
30	土製品	管状土鍾	100	全長3.5 幅1.0 重さ3.0g			角閃石・石英		灰白色	利根川 4次SK14
31	土製品	管状土鍾	100	長さ3.2 径1.0 重さ3.4g			角閃石・石英		灰褐色	利根川 4次SD17
32	土製品	管状土鍾	100	長さ2.9 径1.1 重さ3.4g			角閃石・石英		灰白色	利根川 4次SD55
33	須恵器	長頸瓶	5			(5.4)	石英・白色針状物質	普通	明赤灰色	南比企 4次SD176
34	須恵器	環	5		(7.0)	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD81
35	須恵器	長頸壺	5		(12.0)	(4.1)	石英	不良	にぶい・黄褐色	熊投 5次SD62

びる長胴甕である。

20・21は3次第65号溝跡から出土した須恵器の環である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。

22は3次第74号溝跡から出土した土師器の小型壺である。

23・30は、4次第14号土塊から出土した。23は、須恵器の環である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。30は、土鍾である。両端がすばまる管状土鍾である。

24は、4次第21号土塊から出土した。須恵器の蓋である。ボタン状の痛みがつく。

25は、4次第48号土塊から出土した。須恵器の環である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

26は、4次第19号溝跡から出土した。土師器の碗形の環である。

27は、4次第61号溝跡から出土した。須恵器の環である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

28・29は、4次第103号溝跡から出土した。須恵器の環である。ロクロから糸切り後の調整を行

第117表 水溜り状土塊付き溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎上	焼成	色調	備考
1	土師器	甕	5	24.7		(3.6)	角閃石・輝石	普通	褐色	利根川 3次SD12
2	須恵器	坏	5		(6.2)	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD12
3	土師器	香炉蓋	10		(2.1)		角閃石・石英	普通	褐色	利根川 3次SD12
4	須恵器	坏	5		7.1	(0.6)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企 3次SD14
5	須恵器	坏	5		7.0	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
6	須恵器	長頸壺	5	8.1		(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
7	須恵器	坏	5		5.8	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD14
8	土製品	輪郭口	40				角閃石・輝石		灰白色	利根川 3次SD14
9	土師器	甕	5			(4.4)	角閃石・輝石	普通	褐色	利根川 3次SD15
10	土製品	紡錘車	100	直径 5.0 高さ3.1 重さ33.9g			角閃石・輝石		にぶい褐色	利根川 3次SD15
11	土師器	皿状坏	5	11.8	(3.0)	(2.5)	角閃石・輝石	普通	褐色	利根川 3次SD21
12	須恵器	長頸瓶	5			(4.0)	石英	良好	灰白色	東海地方 3次SD25
13	須恵器	坏	5		(10.3)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD24-25-26
14	須恵器	蓋	10			(1.8)	石英・結晶片岩	不良	灰褐色	末野 3次SD55
15	須恵器	蓋	10			(1.3)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企 3次SD31-32
16	須恵器	坏	5		(5.6)	(1.0)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野 3次SD31-32
17	須恵器	坏	5		(4.6)	(1.4)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD41-42
18	須恵器	坏	5		6.5	(0.9)	石英・白色針状物質	不良	明褐色	南比企 3次SD54
19	土師器	長頸甕	5	21.0		(4.9)	角閃石・輝石	普通	褐色	利根川 3次SD54
20	須恵器	坏	30	11.8	6.4	4.0	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 3次SD65
21	須恵器	坏	5		(6.3)	(1.2)	石英	不良	灰白色	末野 3次SD65
22	土師器	小型甕	60		3.0	(2.8)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい褐色	駒台地 3次SD74
23	須恵器	坏	5		5.7	(1.2)	石英・結晶片岩	普通	黒褐色	末野 4次SK14
24	須恵器	蓋	20			(2.4)	石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企 4次SK21
25	須恵器	坏	5		(6.1)	(1.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SK48
26	土師器	輪郭坏	20	13.8	(6.1)	(4.0)	角閃石・鉄粒子	普通	にぶい褐色	駒台地 4次SD19
27	須恵器	坏	5		(5.6)	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SD61
28	須恵器	坏	5		(7.1)	(1.1)	石英・結晶片岩	普通	黒褐色	末野 4次SD103
29	須恵器	坏	5		(5.3)	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 4次SD103
30	土製品	管状土鍾	100	全長3.5 幅1.0 重さ3.0g			角閃石・石英		灰白色	利根川 4次SK14
31	土製品	管状土鍾	100	長さ3.2 径1.0 重さ3.4g			角閃石・石英		灰褐色	利根川 4次SD17
32	土製品	管状土鍾	100	長さ2.9 径1.1 重さ3.4g			角閃石・石英		灰白色	利根川 4次SD55
33	須恵器	長頸瓶	5			(5.4)	石英・白色針状物質	普通	明赤灰色	南比企 4次SD176
34	須恵器	坏	5		(7.0)	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企 5次SD81
35	須恵器	長頸壺	5		(12.0)	(4.1)	石英	不良	にぶい黄褐色	鍋投 5次SD62

びる長胴甕である。

20・21は3次第65号溝跡から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。

22は3次第74号溝跡から出土した土師器の小型甕である。

23・30は、4次第14号土塊から出土した。23は、須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。30は、土鍾である。両端がすばまる管状土鍾である。

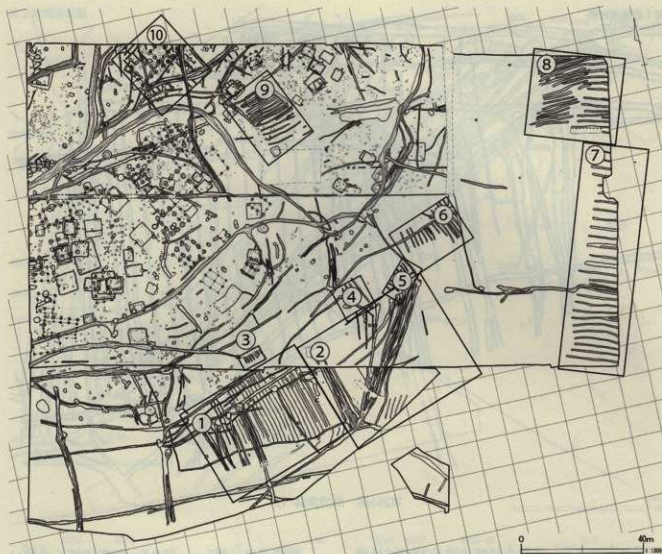
24は、4次第21号土塊から出土した。須恵器の蓋である。ボタン状の摘みがつく。

25は、4次第48号土塊から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

26は、4次第19号溝跡から出土した。土師器の輪郭の坏である。

27は、4次第61号溝跡から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

28・29は、4次第103号溝跡から出土した。須恵器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行



第264図 畝間溝跡位置図

わない。

32は、4次第55号溝跡、31は、4次第17号溝跡から出土した土錘である。両端がすばまる管状土錘である。

33は、4次第176号溝跡から出土した。須恵器の長頸瓶である。

34は、5次第81号溝跡から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを施す。

35は、5次第62号溝跡から出土した須恵器の長頸瓶である。

v 畝間溝跡群

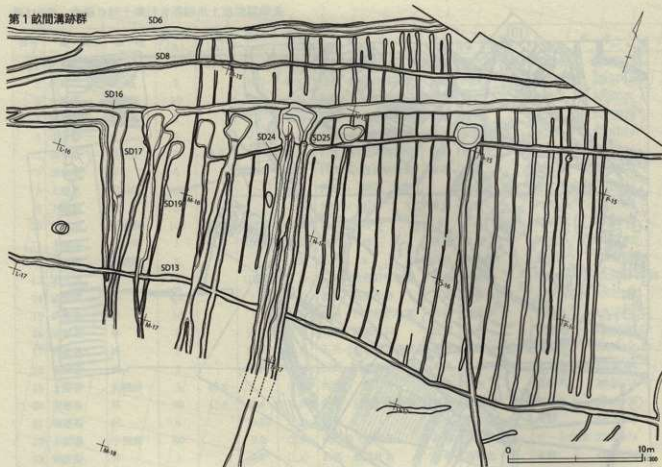
畝間溝跡群について、一括して述べる。畝間溝跡群は、幅10～20cm、深さ5～10cmの小溝跡が、平行して複数条みられる遺構である。畠を耕作するときの畝とその間の溝である。皿沼西遺跡3次～5次の調査区内では、10箇所の畝間溝跡群を検出した。

畝間溝跡群から遺物は、出土しなかった。

なお、畝間溝跡群の土壌について、科学分析を行った。詳細は、V-1を参照願いたい。

第1畝間溝跡群

3次調査区の東側、M-14グリッドからP-16グリッドにかけて検出した。規模は、南北23m、



第265図 畝間溝跡 (1)

東西31mである。北側を枝線水路の3次第6号溝跡、南側を同じく枝線水路の3次第28号溝跡に扶まれた713m²の範囲である。北から南に向かって緩やかに傾斜する。北側を枝線水路の3次第6号溝跡、南側を同じく枝線水路の3次第28号溝跡が扶む。

畝間溝跡は、26本である。溝の番号は、付していない。畝間溝は、幅5cm、深さ3cmで細くて浅い。畝間は、110cmと等間隔である。溝の埋土には、浅間山B軽石が混入していた。

第2畝間溝跡群

4次調査区の中央南辺、R-13グリッドからT-13グリッドに検出した。規模は、幅(南北)5m、長さ(東西)12mである。北から南に向かって緩やかに傾斜していた。畝間溝跡は、4本である。4次第44～46・62号溝跡である。

畝間溝は、幅5cm、深さ3cm程度で細くて浅い。畝間は、180cmと等間隔である。溝の埋土に浅間山B軽石が混入していた。

第3畝間溝跡群

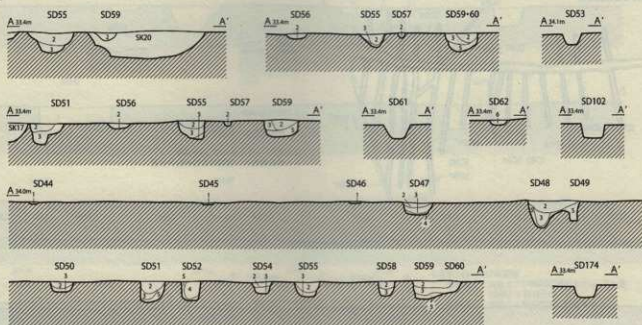
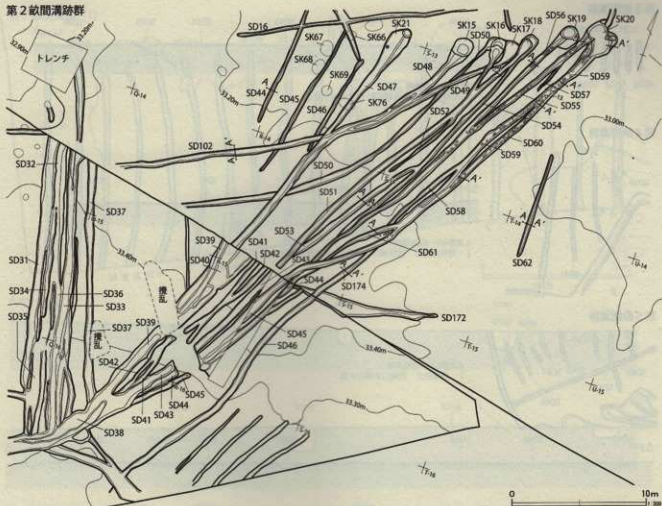
4次調査区の中央、N-13グリッドに検出した。規模は、幅(南北)2.70m、長さ(東西)6.34m、17.1m²の範囲である。中央を幹線水路の4次第4号溝跡が横切るはずである。北から南に向かって緩やかに傾斜する。北側は、枝線水路の4次第7号溝跡まで続く。

畝間溝跡は、7本である。4次第31～36号溝跡である。畝間溝は、幅10cm、深さ5cmで浅い。畝間は、50cmと等間隔である。埋土中には、浅間山B軽石が混入していた。

第4畝間溝跡群

4次調査区の中央、R-12グリッドに検出した。

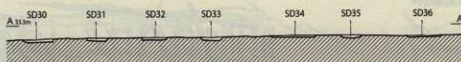
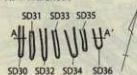
第2畝間溝跡群



- 4 次第44~52・54~60・62号溝跡
- | | | |
|---|------|---------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 浅間山B軽石少量 |
| 2 | 黒褐色土 | 地山ブロック・浅間山B軽石・粘質土 炭化物粒子少量 |
| 3 | 黒褐色土 | 浅間山B軽石を多く含む 炭化物粒子少量 粘性あり |
| 4 | 灰褐色土 | 白色粒子・炭化物粒子少量 |
| 5 | 暗褐色土 | 浅間山B軽石粒子・炭化物粒子少量 粘性弱い |
| 6 | 黒褐色土 | 浅間山B軽石含む 炭化物粒子少量 |

第266図 畝間溝跡 (2)

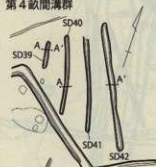
第3 畝間溝群



4次第30～36号溝跡

1 黒褐色土 浅間山B軽石粒子・黒色粒子微量

第4 畝間溝群



4次第40～42号溝跡

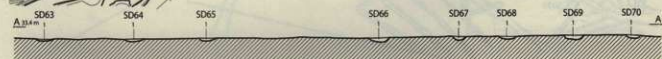
1 暗灰褐色土 粘性強、浅間山B軽石粒子・炭化物粒子少量

第5 畝間溝群

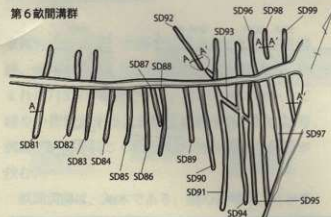


4次第63～70号溝跡

1 黒褐色土 浅間山B軽石少量



第6 畝間溝群



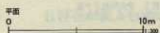
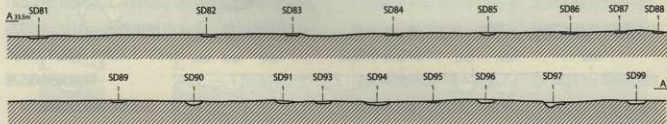
4次第92号溝跡

1 暗灰褐色土 炭化物粒子少量

2 暗灰褐色土 粘性あり

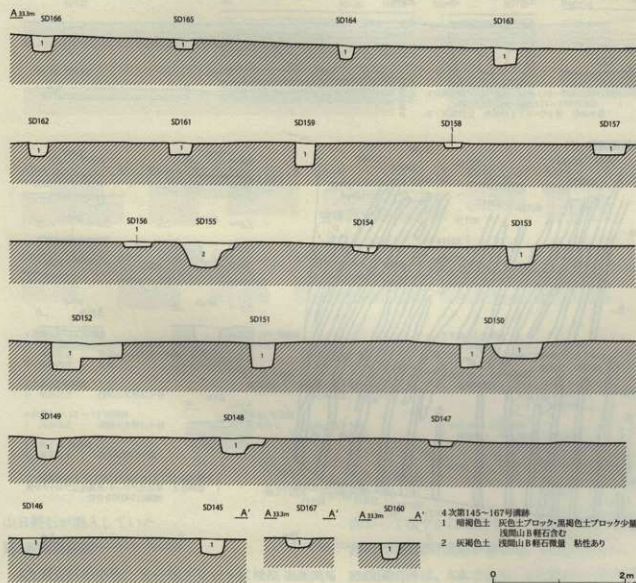
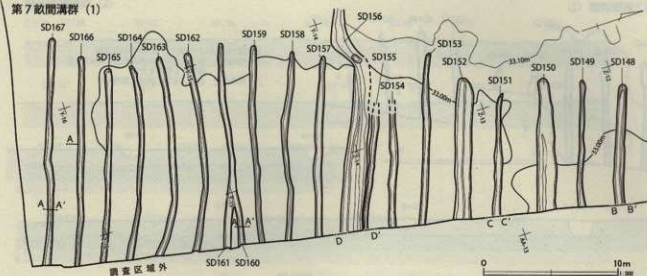
4次第81～91・93～97・99号溝跡

1 暗灰褐色土 浅間山B軽石粒子少量



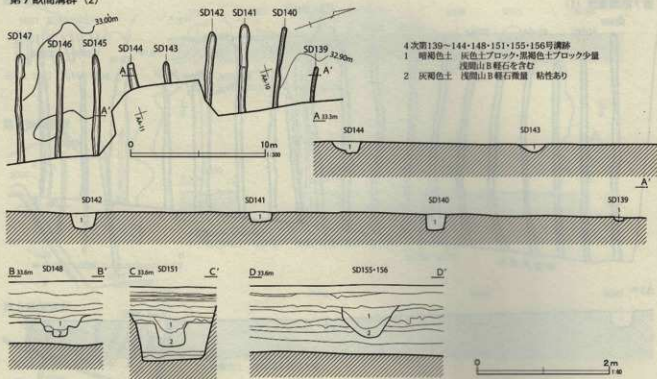
第267図 畝間溝跡 (3)

第7畝間溝群 (1)

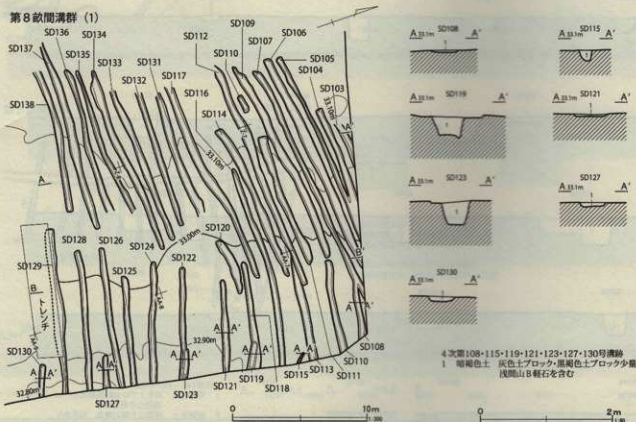


第268図 畝間溝跡 (4)

第7畝間溝群 (2)



第8畝間溝群 (1)

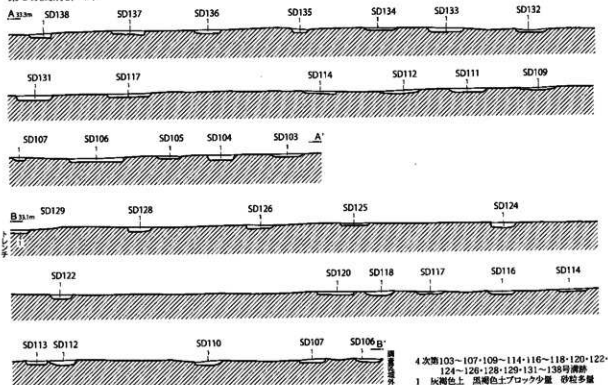


第269図 畝間溝跡 (5)

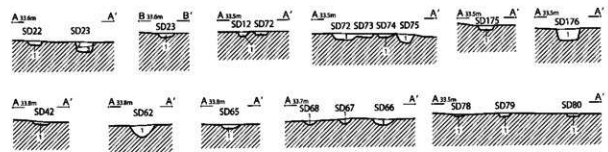
規模は、幅 (南北) 10.0m、長さ (東西) 5m、50㎡の範囲である。北側を近世の4次第14号溝跡、西側を枝線水路の4次第43号溝跡に挟まれる。

畝間溝跡は、4本である。4次第39～42号溝跡である。畝間溝は、幅10cm、深さ5cmで浅い。畝間は、120cmと等間隔である。埋土中には、浅間

第8 畝間溝群 (2)



4次第103・107・109～114・116～118・120・122・124～126・128・129・131～138号溝跡
1 灰褐色土 灰褐色土ブロック少量 砂粒多量



4次第22・23号溝跡
1 灰褐色粘質土 浅間山A軽石微量
2 灰褐色土 浅間山A軽石粒子微量 粘質
3 灰褐色土

4次第23号溝跡
1 暗褐色土 浅間山B軽石少量

4次第12・72～75号溝跡
1 黒褐色土 浅間山B軽石少量

4次第175号溝跡
1 黒褐色土 炭化物粒子少量

4次第176号溝跡
1 暗灰褐色土 炭土粒子・炭化物粒子少量

5次第42号溝跡
1 暗灰褐色土 黄色土粒子やや多い 炭化物微量 しまりあり

5次第62号溝跡
1 灰褐色土 白色土粒子少量 しまり・粘性あり

5次第65号溝跡
1 灰褐色土 灰色土粒子やや多い 炭化物微量 しまりあり

5次第66～68号溝跡
1 暗灰褐色土 灰色土ブロック・灰色土粒子やや多い しまり・粘性あり

5次第78～80号溝跡
1 暗褐色土 浅間山B軽石少量 黄褐色土粒子やや多い



第270図 畝間溝跡 (6)

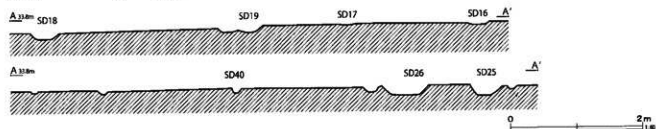
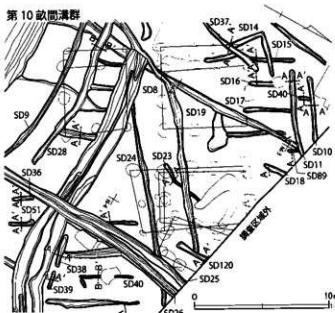
山B軽石が混入していた。

第5畝間溝跡群

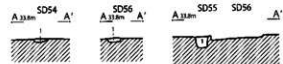
4次調査区の中央、S-12グリッドに検出した。規模は、幅(南北)8.60m、長さ(東西)8.36m、71.9㎡の範囲である。東側を水溜り状土壌付溝の4次第17号溝跡によって区画される。西から東に

向かって緩やかに傾斜する。中央を東西に枝線水路の4次第16号溝跡が横切る。同溝が新しい。

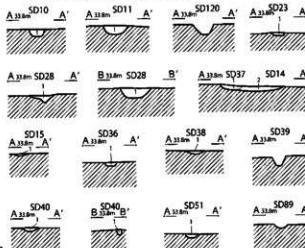
畝間溝跡は、8本である。4次第63～70号溝跡である。畝間溝は、幅10cm、深さ5cmで浅い。畝間は、60cmと等間隔である。埋土中には、浅間山B軽石が混入していた。



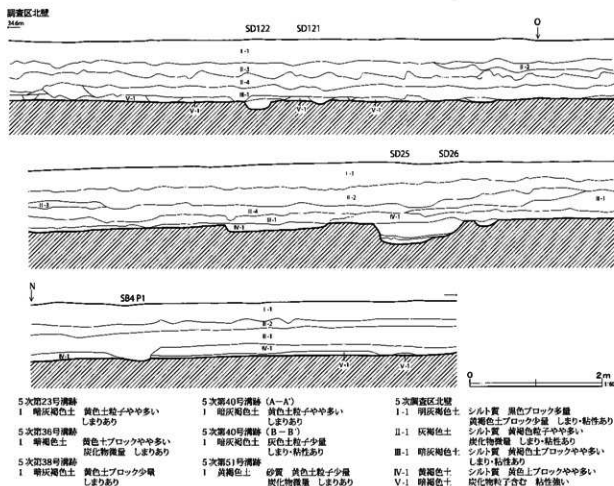
- [illegible]



- 5 次第10号試験 灰色土ブロック少量 しまりあり
1 暗灰褐色土
5 次第11号試験 黄色土ブロック少量 黄色土粒子やや多い
1 暗灰褐色土 炭化物微量 しまり・粘性あり
- 5 次第37・14号試験
1 暗灰褐色土 黄色土粒やや多い しまりあり
2 暗灰褐色土 黄色土粒子多量 しまりあり
- 5 次第15号試験
1 暗灰褐色土 黄色土粒子多量 しまりあり



— 340 —



第272図 畝間溝跡 (8)

第6畝間溝跡群

4次調査区の中央、T-11グリッドに検出した。規模は、幅（南北）13.20m、長さ（東西）18.90m、249.5㎡の範囲である。西側を水溜り状土盛り溝の4次第17号溝跡によって区画される。西から東に向かい緩やかに傾斜する。中央を東西に近世の4次第14号溝跡が横切る。同溝が新しい。

畝間溝跡は、16本である。4次第81～99号溝跡である。畝間溝は、幅10cm、深さ5cmで浅い。畝間は、100cmと等間隔である。埋土中には、浅間山B軽石はない。

第7畝間溝跡群

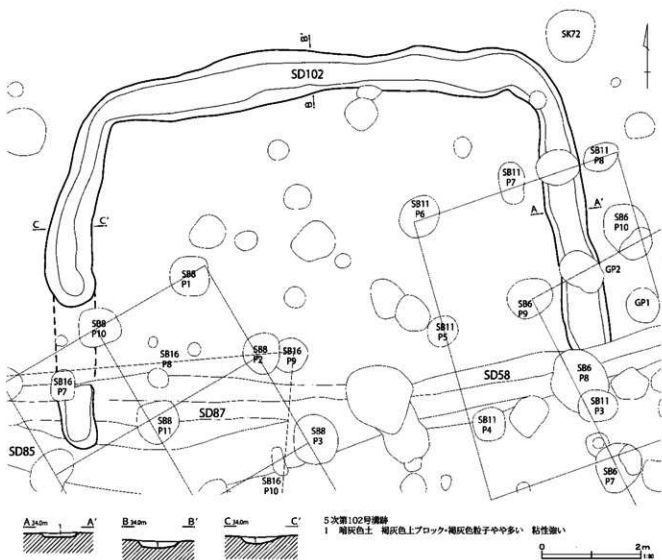
4次調査区の東端、Y-14グリッドに検出した。規模は、幅（南北）65.60m、長さ（東西）28.80m、1889㎡の範囲である。溝による区画はない。東側は、調査区外となる。北端で第8畝間溝跡群と重複する。

畝間溝跡は、31本である。4次第127・130・139～167号溝跡である。畝間溝は、幅10cm、深さ5cmで浅い。畝間は、200cmと等間隔である。埋土に浅間山B軽石を含む。

第8畝間溝跡群

4次調査区の北東端、Y-8グリッドに検出した。規模は、幅（南北）28.30m、長さ（東西）27.20m、769.76㎡の範囲である。溝による区画はない。東側と北側は調査区外となる。東端で第7畝間溝跡群と重複する。西側と東側の溝跡群に分けられ、西側は、畝の間隔が狭い。

畝間溝跡は、30本である。西側は、4次第103～107・109・111・112・114・116・117・131～138号溝跡、東側は、4次第108・110・113・115・118～130号溝跡である。ともに畝間溝は、幅10cm、深さ5cmで浅い。畝間は、東側が、100cm、西側が150cmと等間隔である。埋土中に浅間山B



第273図 区画溝跡

軽石を含む。

第9畝間溝跡群

5次調査区の中央、P-5グリッドに検出した。規模は、幅（南北）19.5m、長さ（東西）23.35m、455.3㎡の範囲である。東側を5次第50号溝跡、西側を5次第101号溝跡によって区画される。北側と南側は、畝の間隔が異なり、北側が狭い。5次第35・36住居跡と重複するが、両住居跡より古い。傾斜はほとんどない。

畝間溝跡は、19本である。北側は、5次第105～117号溝跡、南側は、第54・56・57～59・63・64号溝跡である。北側の畝間溝は、幅30cm、深さ20cmと深いのが、南側の畝間溝は、幅10cm、深

さ5cmと浅い。畝間溝は、北側が、100cm、南側が105cmである。

第10畝間溝跡群

5次調査区の中央、L-3グリッドに検出した。規模は、幅（南北）16.9m、長さ（東西）26.8m、452.9㎡の範囲である。範囲を区画する明確な溝跡はない。5次第1～5号掘立柱建物跡より新しい。途切れながら続く9条の溝跡である。5次第10・11・15～17・28・36・51・89号溝跡である。畝の間隔は、100cmである。

vi水田跡（第234・272図）

5次調査区の東側に水田跡を検出した。西側を5次34号溝跡によって区画される。V-7グリッ

ドからT-9グリッドに位置する。第234図参照。
この範囲は、耕作土を取り除くと浅間山B軽石層が、3～5cm堆積しており、その層を除去すると、東西18.4m、南北29.7mの547㎡にわたって水田土壌を検出した。粘性の強い黒色土であった。表面に足跡や牛馬の足跡などは検出できなかった。

そこで、グリッド杭を基準にトレンチを設定し、黒色土層中に埋没した畝や溝の検出に努めた。しかし、畝は検出できなかった。

5次第61・62・80・81号溝跡は、この水田跡にかかわる溝かもしれない。浅間山B軽石層を除去した後、これらの溝に相当する場所が、凹地として検出できたからである。なお、液状化現象による噴砂は、この黒色土の下面で途切れていた。

vii区画溝跡（第273図）

5次調査区のK-5グリッドに検出した第102号溝跡は、区画溝跡である。「コ」の字形にめぐる。

南側を第58号溝跡で区画し、全体を長方形に区画していた。区画した空間は、幅5.83m、長さ9.23mの隅丸長方形の空間である。溝の幅や深さは一定し、西側で一部途切れる。その規模は、幅80cm、深さ12cmである。

区画溝内に柱穴はみられるが、この区画と一致した柱並びの建物は検出できなかった。しかし、梁行2間×桁行3間の建物ならば、この溝で区画した空間にちょうど収まる。区画溝の内に土台建ち建物も想定できるが、その痕跡は、確認できなかった。なお、この区画溝は、5次第5号溝跡の蛇行と共通する。

第102号溝跡は、液状化現象による噴砂で埋土の一部が、破壊されていた。土器の小片が出土した以外、出土遺物はない。

第118表 溝跡一覧表

番号	遺構の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
風沼西遺跡3次								
2	幹線水路	G12	102	13	K13	70	31	20.7
3	枝線水路	F15	44	7.5	J15	52	13.5	2
6	枝線水路	K15	80	10.4	N14	94	28	4
7	枝線水路	K15	40	6.1	K15	40	8	9.4
8	枝線水路	K15	40	9.5	O14	34	14.4	0.9
9	枝線水路	K15	40	8.8	O14	70	22.9	7.9
10	枝線水路	J15	60	10	L15	46	11	0
12	水溜り溝	K16	320	43	J16	160	48.3	214
13	枝線水路	K16	32	10.5	P16	50	11	2
14	水溜り溝	G13	114	42.8	G17	30	13	37
15	枝線水路	L15	54	17	L17	100	17	8
16	水溜り溝	L15	84	14.3	L16	46	10.1	4.6
17	水溜り溝	L15	30	34.3	L17	100	17	200
18	水溜り溝	L15	40	8	M16	26	7	0
19	水溜り溝	L15	40	35	M17	25	14	0
21	水溜り溝	M15	34	8.6	M17	42	15.9	15.6
22	水溜り溝	M15	42	19.5	M17	60	31.6	5.2
23	水溜り溝	M15	40	10	M17	40	8.6	4
24	水溜り溝	M15	60	41	M17	40	39.4	9.5
25	水溜り溝	M15	76	35.2	N17	84	28	202
26	水溜り溝	M15	40	9.8	N17	36	20	16
27	枝線水路	M15	30	16.8	P14	40	13.1	10
28	枝線水路	N16	34	10.8	P16	40	10.2	1

番号	遺構の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
29	水溜り溝	N15	46	47	O17	40	14.5	8.3
31	水溜り溝	P14	80	33.4	Q16	38	8	10
32	水溜り溝	P15	60	20	P14	100	60	33.7
33	水溜り溝	P14	60	49.9	Q16	70	25	208.1
34	水溜り溝	P15	44	37.8	P15	50	23.5	9
35	水溜り溝	P16	70	16.3	Q16	80	26.5	5.5
36	水溜り溝	P15	60	13.7	Q15	22	-10	184
37	水溜り溝	P14	70	18.2	Q16	70	17.9	14.6
38	水溜り溝	Q16	70	13.6	Q16	64	34.9	6
39	水溜り溝	R14	50	47.9	Q16	72	38.6	5.1
40	水溜り溝	R14	58	15	Q15	52	9.2	0.1
41	水溜り溝	Q15	34	8	Q16	32	6.8	0.6
42	水溜り溝	R14	30	7.4	Q16	24	9.5	4.8
43	水溜り溝	R14	54	13.3	Q15	58	36.7	38.5
44	水溜り溝	R14	44	20.3	Q16	24	6.7	15
45	水溜り溝	R14	30	11.7	Q16	40	8.7	10.5
46	枝線水路	R15	13.4	16	Q16	44	11.4	12.1
47	枝線水路	K13	18	4.3	K15	19	5.3	2.2
49	幹線水路	F14	36	23.9	N15	54	10.3	25.3
50	幹線水路	G14	22	7.5	G14	36	9.4	5.9
51	水溜り溝	G15	70	6.2	G14	72	6.5	10.4
52	円形土壌	G13	51	4.6	K14	17	8.7	3.9
53	円形土壌	G13	34	6.8	J15	44	16.5	14.9
54	水溜り溝	J16	50	14.8	J18	40	2.8	2

番号	道橋の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
55	水溜り溝	J16	30	9.9	J17	34	3.4	8
56	水溜り溝	J18	60	7.8	J17	44	20	6
57	水溜り溝	G17	20	4	G18	19	4	0
58	水溜り溝	G16	26	2.3	G17	50	5.5	10.5
59	小溝	G16	45	23	G18	33	3	0
60	幹線水路	S19	41	9.7	F17	90	31.9	14
62	水溜り溝集合	P17	12	6.3	P17	25	5	0
63	水溜り溝集合	M18	60	31.8	S18	90	33	22.8
64	枝線水路	M18	83	24.4	N18	86	21.6	0.1
67	水溜り溝集合	R17	98	45	S18	90	33	0
68	幹線水路	R19	90	17	S19	44	6	0
69	水溜り溝	S19	71	26.8	R19	40	5	0
70	小溝	S18	45	29	S19	53	23	0
71	小溝	O14	60	9.5	P15	84	42.9	36.5
72	枝線水路	M15	30	7.5	M14	30	7.6	4.4
74	円形土壌関係	K13	20	7.1	K14	34	17	180
75	円形土壌関係	K13	24	10.9	K15	32	11.1	1.9
76	円形土壌関係	K14	38	16.4	K13	40	21.5	7.4
77	円形土壌関係	J14	50	42.7	K14	64	51	6.5
78	円形土壌関係	K14	30	11.1	K14	30	6.9	0.8
79	幹線水路	K13	35	15	J13	45	7	0
80	幹線水路・円形土壌	J15	30	4	K15	40	12.6	4
82	枝線水路	L13	30	6	K14	24	5.1	2.7
79	幹線水路	J15	30	4	K15	40	12.6	4
82	枝線水路	L13	30	6	K14	24	5.1	2.7
順道西進路4次								
4	幹線水路	G12	118	63.5	N13	17	5.4	21.2
5	小溝	L8	32	15	L8	40	19.4	6.4
6	幹線水路	Q10	52	19.6	K13	36	15.4	14.7
7	枝線水路	M13	56	18.5	R10	52	8.1	13.9
8	幹線水路	P8	94	40.1	S9	44	38	14.1
9	小溝	Q10	32	3	Q9	52	9.6	3.7
10	小溝	Q9	16	2.8	Q9	20	4	6
11	幹線水路	Q10	10	2.1	Q10	32	4.9	6.2
12	畝間溝	Q10	18	1	Q12	53	17	0
13	枝線水路	R10	32	4.1	R10	52	3.2	2.4
15	枝溝	O14	34	4.4	R13	24	2	25.3
16	枝溝	Q13	18	1.3	T12	28	3.2	4.3
17	水溜り溝	T12	42	16	S10	112	43.3	12.7
19	水溜り溝	U12	56	53.5	Y13	91	55.2	24.9
21	畝間溝	O10	24	5	O11	16	2	12.1
22	畝間溝	O10	22	3	O11	20	0.3	11.6
23	畝間溝	O10	20	4.5	O11	26	6.2	29.5
25	枝線水路	P9	38	2.4	L13	15	7.8	156
26	枝線水路	N12	30	4.4	O11	48	11	179
27	幹線水路	N12	12	4.4	P11	4	5.8	6.5
28	枝線水路	M12	24	9.2	K13	50	17.4	6
30	畝間溝③	N13	38	1.5	N13	32	4.2	0.1
31	畝間溝③	N13	32	3.8	N13	38	2.4	1
32	畝間溝③	N13	36	2.1	N13	48	2	0.1

番号	道橋の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
33	畝間溝③	N13	34	1	N13	34	4.4	3
34	畝間溝③	N13	60	0.6	N13	74	3	1.8
35	畝間溝③	N13	34	2	N13	34	4.4	1.8
36	畝間溝③	N13	44	0.8	N13	58	2.2	1.3
37	幹線水路	Q10	26	2.7	P10	24	5.4	19
39	畝間溝④	Q12	28	2.1	Q12	24	3.2	0.7
40	畝間溝④	Q12	26	1.7	R12	11	1.4	1.6
41	畝間溝④	R12	20	2.9	R12	34	2.8	4.3
42	畝間溝④	R12	36	0.7	R11	38	5.2	9.5
43	畝間溝④	R12	14	4	Q12	26	13.8	12.3
44	畝間溝②	R13	18	3.4	Q13	18	0.2	6.2
45	畝間溝②	R13	18	32	R14	18	0.9	3.6
46	畝間溝②	R13	24	1.1	R14	20	3	7.1
47	水溜り溝	R13	84	25.1	R14	11	17.8	1.9
48	水溜り溝	S12	116	34.7	R14	40	33.7	13.5
49	水溜り溝	S13	68	35.8	R13	23	26	213
50	水溜り溝	S12	26	9	Q14	26	1.8	4.5
51	水溜り溝	R14	34	15.4	Q12	48	17.7	19.6
52	水溜り溝	S13	31	30.3	S13	12	6.9	184
53	水溜り溝	S13	13	14.9	R14	43	22	202
54	水溜り溝	S12	30	12.3	R14	27	19	188
55	水溜り溝	R15	40	14.8	T12	54	35.3	10.8
56	水溜り溝	S12	46	24.8	S13	32	9	197
57	水溜り溝	S12	10	4.7	S13	12	5	181
58	水溜り溝	S14	19	9.9	S14	19	10	188
59	水溜り溝	S13	22	11.4	S13	24	25.4	207
60	水溜り溝	T12	44	18.8	T12	45	19.7	6
61	水溜り溝	R14	26	5.7	S14	34	22.6	3.5
62	畝間溝②	S12	18	4	T14	22	1.4	2.3
63	畝間溝③	T12	26	1.3	S12	29	3	180
64	畝間溝③	S12	20	1.1	S12	18	2	179
65	畝間溝③	S12	32	1.4	S12	22	2	180
66	畝間溝③	S12	30	0.8	S12	25	2	181
67	畝間溝③	S12	24	37	S11	23	3	183
68	畝間溝③	S12	24	1.6	S11	24	1.4	179
69	畝間溝③	S11	29	2.8	S12	28	2	180
70	畝間溝③	S11	18	3.2	S12	18	3	181
71	枝線水路	Q12	46	25.1	O12	28	10.6	3.1
72	畝間溝	Q11	20	7.7	Q12	28	10.2	11.4
73	畝間溝	Q11	24	3.2	Q11	16	0.6	7.7
74	畝間溝	Q11	20	4.8	Q11	14	0.6	1.8
75	畝間溝	Q11	32	3.6	Q11	20	1.5	170
76	畝間溝	Q11	18	1.7	Q11	34	2	5.9
77	畝間溝	Q11	32	4.4	Q11	30	2	170
78	畝間溝	Q10	16	3.5	Q11	15	4.4	5.4
79	畝間溝	Q10	20	2.6	Q11	20	2.5	4.2
80	畝間溝	Q10	10	2.6	Q11	20	2.2	6
81	畝間溝④	T11	38	1.6	T10	36	3.4	4.6
82	畝間溝④	T11	32	4.1	T10	38	1.9	3.1
83	畝間溝④	T11	26	2.4	T10	28	2.9	4.6
84	畝間溝④	T11	24	1.2	T10	24	0.5	0.1

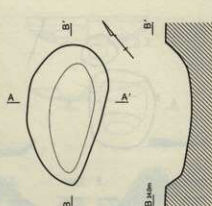
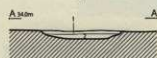
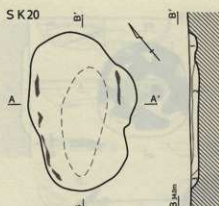
番号	道路の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
85	縦間溝⑥	T11	22	4.4	T10	24	2.1	1.6
86	縦間溝⑥	U11	19	3.8	T10	28	2.2	3
87	縦間溝⑥	U11	10	3.2	T10	18	2	1.4
88	縦間溝⑥	U11	24	1.4	T10	18	1.7	0.5
89	縦間溝⑥	U11	26	1.5	U10	23	2	166
90	縦間溝⑥	U11	28	2.3	U10	25	0.4	166
91	縦間溝⑥	U11	32	0.9	U10	20	1.5	2.4
92	縦間溝⑥	T10	20	2.7	U10	22	11	171
93	縦間溝⑥	U10	20	3.8	U10	20	5.1	1.7
94	縦間溝⑥	U10	24	2.2	U11	19	0.3	169
95	縦間溝⑥	U11	20	2.2	U10	25	6	171
96	縦間溝⑥	U10	26	3.1	U11	30	1.8	0.2
97	縦間溝⑥	U10	36	1.6	U11	34	2	170
98	縦間溝⑥	U10	26	2.4	U10	26	1	168
99	縦間溝⑥	U10	30	2.5	U10	30	7.5	7.1
100	水溜り溝	V13	76	18.1	W13	66	53.2	42.2
101	水溜り溝	V13	70	23.8	W13	62	27	207
102	水溜り溝	Q14	40	2.2	R13	48	13	198
103	縦間溝⑥	Z6	46	3.3	Z6	30	4	3.7
104	縦間溝⑥	Z6	44	2.9	Z6	50	4.1	5.3
105	縦間溝⑥	Y6	30	5.2	AA6	34	4.7	5.6
106	縦間溝⑥	Y6	52	4.2	AA6	58	5.2	19.7
107	縦間溝⑥	Y6	46	5.8	AA6	64	3.9	18.9
108	縦間溝⑥	AA6	34	3.3	AA6	36	3.5	3.3
109	縦間溝⑥	Y6	60	4.1	AA6	50	4	18.2
110	縦間溝⑥	AA6	46	4.7	AA6	52	2.3	0.5
111	縦間溝⑥	Y6	40	3.9	AA6	50	4.1	15.2
112	縦間溝⑥	Y7	58	3.1	AA6	39	5.9	20.4
113	縦間溝⑥	AA7	44	5.7	AA7	52	5.3	22.2
114	縦間溝⑥	Y7	52	5.6	AA7	42	3.1	10.1
115	縦間溝⑥	AA7	16	8.3	AA7	20	20.4	8.4
116	縦間溝⑥	Z7	46	7.5	AA7	40	3.4	12.9
117	縦間溝⑥	Y7	64	4.7	AA7	40	3.2	18.4
118	縦間溝⑥	Z7	58	5.2	AA7	52	5.8	1
119	縦間溝⑥	AA7	46	26.4	AA7	56	38.2	8.2
120	縦間溝⑥	Z7	58	3.9	AA7	40	3.2	0.1
121	縦間溝⑥	AA7	38	3.4	AA7	40	6	207
122	縦間溝⑥	Z7	36	7	AA8	38	7	7.7
123	縦間溝⑥	AA7	42	17.6	AA8	40	40.2	12.6
124	縦間溝⑥	Z7	40	5.2	AA8	46	6.4	15.2
125	縦間溝⑥	Z8	40	5.1	AA8	44	3.5	13.6
126	縦間溝⑥	Z8	40	4.8	AA8	40	4	16.5
127	縦間溝⑥	AA8	40	6.5	AA8	56	4	2.5
128	縦間溝⑥	Z8	44	3	AA8	48	3.8	20
129	縦間溝⑥	Z8	36	6.6	AA8	40	5.8	26
130	縦間溝⑥	AA8	42	6.9	AA9	30	8	7.3
131	縦間溝⑥	Y7	44	6.4	Z7	46	2.2	10.1
132	縦間溝⑥	Y7	36.2	4	Z7	36	5	10.9
133	縦間溝⑥	Y7	52	4.3	Z7	40	4.1	11.5
134	縦間溝⑥	Y7	60	1.9	Z7	38	5.3	12.7
135	縦間溝⑥	Y8	30	1.9	Z8	30	3	6.6

番号	道路の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
136	縦間溝⑥	Y8	36	2.6	Z8	48	5.4	11.1
137	縦間溝⑥	Y8	48	4.1	Z8	38	6.2	12.7
138	縦間溝⑥	Y8	44	3.7	Z8	36	5	187
139	縦間溝⑥	AA9	26	3.9	AA9	20	3.5	1.5
140	縦間溝⑥	Z9	30	5	AA9	40	18.2	18.5
141	縦間溝⑥	Z10	64	5.3	AA10	46	2.5	2.5
142	縦間溝⑥	Z10	64	9.8	AA10	40	30	20.2
143	縦間溝⑥	Z10	46	10.5	Z10	44	10	1
144	縦間溝⑥	Z10	40	5.2	Z10	46	15.5	10.8
145	縦間溝⑥	AA11	36	24.1	Z11	54	26	11
146	縦間溝⑥	AA11	34	16.2	Z11	50	18	11.6
147	縦間溝⑥	AA11	31	10.2	Z11	44	20	17.4
148	縦間溝⑥	Z11	60	24.5	Z12	60	31.2	8.1
149	縦間溝⑥	Z12	50	30.5	Z12	50	40	229
150	縦間溝⑥	Y12	90	29.6	Z12	126	44.5	14.4
151	縦間溝⑥	Y12	28	28.5	Z13	50	47.9	2.5
152	縦間溝⑥	Y13	112	40	Z13	120	43	9.7
153	縦間溝⑥	Y13	36	8.5	Z13	50	26.8	33.7
154	縦間溝⑥	Y13	44	11.2	Z13	44	14.5	8.8
155	縦間溝⑥	Z14	34	6.2	Z13	32	6.4	3
156	縦間溝⑥	Y13	42	9.9	Z14	50	9.1	2.3
157	縦間溝⑥	Z14	50	14.7	Y14	30	46.5	20.9
158	縦間溝⑥	Y14	28	13.9	Z14	40	14.9	5.6
159	縦間溝⑥	Z14	30	20.7	Y14	40	37.9	13.4
160	縦間溝⑥	Z15	48	17.2	Z14	36	25.6	12.2
161	縦間溝⑥	X14	28	20.5	Z15	46	17.2	1
162	縦間溝⑥	Z15	44	11.1	X14	40	19.6	6.9
163	縦間溝⑥	Z15	58	13.6	X15	40	21.6	12.2
164	縦間溝⑥	X15	42	14.2	Z15	34	29.8	9.8
165	縦間溝⑥	Z16	38	21.7	X15	44	25	9.8
166	縦間溝⑥	X15	32	19.8	Z16	36	33.6	10
167	縦間溝⑥	Z16	40	18.2	X15	40	5.9	5.3
168	小溝	N12	16	2.9	N12	20	6.7	4.8
169	小溝	N11	20	3.7	N11	38	8.1	163
170	小溝	M13	18	3.1	M13	22	5.8	2.6
171	水溜り溝	P13	64	3.4	P14	20	1.7	9.6
172	枝線水路	S14	14	1.5	R15	20	7.9	10.2
173	小溝	M9	48	15.1	L9	46	10.8	0.7
174	水溜り溝	R16	48	14.5	S14	28	22.6	5.8
175	縦間溝	K12	32	7.5	L12	4	10.6	13.3
176	縦間溝	K12	30	7.4	L12	38	19	20.9
179	小溝	W10	44	4.5	V9	44	4.6	10.3
184	枝線水路	P9	38	3.7	P9	50	5	0.2
昭西道路5次								
3	幹線水路	H6	210	76	K2	167	69	21.7
4	幹線水路	H7	98	30.4	N5	101	6.7	131
5	幹線水路	H6	218	87.5	V4	77	57.1	184
6	幹線水路	K7	56	19.2	K2	60	7.4	0.5
8	枝線水路	H6	46	10	M3	36	3	7.8
9	枝線水路	K5	64	19.8	O5	47	11.2	0
10	縦間溝⑥	L2	30	2.5	L3	24	10.4	5

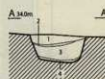
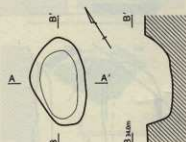
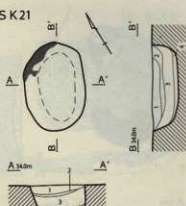
番号	遺構の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
11	畝間溝⑨	L3	20	2.6	L3	26	7.5	10.7
12	小溝	L3	14	0.7	L3	20	3.5	7.5
13	小溝	K3	40	4.2	L4	42	5.6	6
14	畝間溝⑨	L3	20	2.6	L3	40	4.1	5.2
15	畝間溝⑨	L3	20	2.4	L3	22	3.8	0.8
16	畝間溝⑨	L3	32	1.7	L3	26	4.9	4.9
17	畝間溝⑨	L3	26	2	L3	16	4.7	0.7
18	畝間溝⑨	M3	53.6	7.5	M2	54	7.9	5.9
20	小溝	M3	57	2	M3	67	5	0
22	小溝	L4	44	3.5	L4	28	5	134
23	畝間溝⑨	M3	16	2.5	M3	24	5	0.6
24	枝線水路	M4	26	4.2	N3	28	13.2	10.9
27	枝線水路	N3	76	23.8	L4	75	26	179
28	畝間溝⑨	L4	56	11.7	L4	58	11.4	14.5
29	枝線水路	N4	50	5.8	O5	50	8.7	5.4
30	枝線水路	L4	80	24.6	P3	44	22.5	7.6
31	枝線水路	N5	34	7.2	P3	30	2.9	3
33	幹線水路	T7	38	13.2	U6	73	18.9	163
36	畝間溝⑨	N4	18	4.2	N4	22	2.8	0.9
38	畝間溝⑨	N4	30	1.8	N4	34	1.6	2.4
39	畝間溝⑨	N4	20	12.2	N4	24	11.5	1.6
40	畝間溝⑨	N3	12	5.4	N3	16	6.8	3.5
41	枝線水路	P4	48	5.1	P3	32	2	4.5
42	畝間溝区画溝	P3	18	4.3	P3	17.5	4.1	0.3
43	枝線水路	S6	74	7.6	S4	34	2	8.3
44	枝線水路	T5	39	8.9	S4	42	8.6	5
45	枝線水路	T4	15	2	S4	14.1	2.5	19.2
46	枝線水路	T4	50	2.6	T4	42	3.1	2
48	枝線水路	S8	34	16.6	T7	53	16	164
49	水田区画溝	S9	50	11	T8	55	31	0
50	畝間溝区画溝	K5	56	19.2	K5	40	14.8	10.8
51	畝間溝⑨	N4	18	3.2	N4	32	3.7	1.3
52	枝線水路	S4	44	6.3	S4	58	9.3	1.3
53	小溝	O5	21.6	2.7	O4	22	2.9	10.2
54	畝間溝⑨	Q6	24	5.2	P7	28	6.7	3
56	畝間溝⑨	P6	24	22.6	P6	24	5.1	4.6
57	畝間溝⑨	Q6	20	1.1	Q6	22	1.3	3.8
58	畝間溝⑨	P6	24	4.1	Q6	20	5.6	3.4
59	畝間溝⑨	Q6	20	5	Q6	20	5	0
61	水田区画溝	T8	20	3	T8	18	4.4	5.4
62	枝線水路	Q8	45	3.8	S8	31	4.2	0.4
63	畝間溝⑨	Q6	28	10.3	P6	24	6.4	14.3
64	畝間溝⑨	Q6	18	4.8	Q6	24	10.5	6.7
65	畝間溝	R8	24	1.8	R7	24	2.1	1.5
66	畝間溝	R7	19	4.6	S6	24	7.1	4.4
67	畝間溝	S6	24	5.5	R7	24	13	1
68	畝間溝	S6	22	4.3	S7	26	9	7.3

番号	遺構の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
69	畝間溝	S6	22	1.8	S7	22	1	3.3
70	小溝	T5	20	3.8	S5	28	4.7	0.8
71	小溝	U5	16	3.3	U4	22	5.8	2.1
72	小溝	U5	46	4.8	U5	38	4.2	2.7
73	小溝	T6	14	4.6	T5	24	10.8	2.6
74	小溝	U5	16	1.8	U5	18	6.6	8.5
75	小溝	U5	13	3	U5	11	2	0
76	小溝	T5	26	1.4	T5	24	3.2	2.3
77	小溝	R5	12	4	R5	20	11	0
78	小溝	S5	16	1.7	S6	22	4.9	2.9
79	小溝	R7	16	13	R7	22	17.4	3
80	水田区画溝	S8	16	1.5	S8	16	3.4	0.7
81	水田区画溝	S8	14	3.4	S8	40	4.2	3.9
84	枝線水路	P5	84	2.9	R4	11.2	18	129
85	枝線水路	J6	56	32	N7	46	32	145.5
86	枝線水路	M6	40	27	M5	74	16	0
89	畝間溝⑨	M2	45	5.3	M3	17	48	12
90	枝線水路	J5	35	8	K5	40	27	0
91	枝線水路	J5	60	19.4	K5	47	30	142
93	枝線水路	V6	20	11.2	V7	30	12	182
94	枝線水路	V7	18	6.5	V7	22	5.2	0.2
95	枝線水路	V7	55	9	V7	45	8	0
96	枝線水路	V7	22	5	V7	20	13.6	3
97	小溝	U8	14	4.6	V7	22	8.2	12.3
98	小溝	I6	76	10.9	J6	80	26.7	19.2
99	枝線水路	J6	200	12	J6	55	12	1
100	枝線水路	J6	79	20	J6	57	8.6	8.4
101	枝線水路	O5	162	52.9	P6	48	12.9	27.3
102	区画溝	M6	90	3	L6	94	5.9	12.6
103	枝線水路	K6	55	10.9	K7	48	14.5	6.6
104	幹線水路	K6	26	6.6	K6	100	36.2	2.4
105	畝間溝⑨	O5	52	11.5	P5	62	16.8	3.1
106	畝間溝⑨	P5	56	4.4	O5	52	12.6	2
107	畝間溝⑨	P5	48	2.7	O5	40	9.9	1.5
108	畝間溝⑨	P5	22	2	P5	27	4	0
109	畝間溝⑨	P5	42	4	P5	40	3.7	5.2
110	畝間溝⑨	O5	46	14.1	P5	32	14.1	9.5
111	畝間溝⑨	Q5	58	6.5	O5	46	10.8	3.5
112	畝間溝⑨	P6	38	15.7	Q5	46	12.1	10.8
113	畝間溝⑨	P6	36	14.1	Q5	46	2.9	4
114	畝間溝⑨	P6	44	9.4	Q5	34	12	15.9
115	畝間溝⑨	P6	22	8.2	Q5	40	3.8	18.6
116	畝間溝⑨	Q6	29	6.9	P6	30	6.5	1.8
117	畝間溝⑨	P6	40	2.9	Q6	40	4.4	4.3
118	枝線水路	I6	135	35	I6	80	23.4	6.1
119	枝線水路	L6	42	29	L6	100	18.7	110

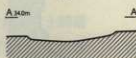
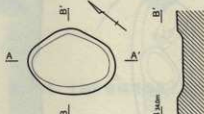
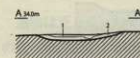
SK 20



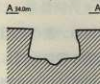
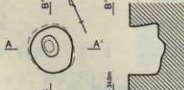
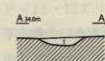
SK 21



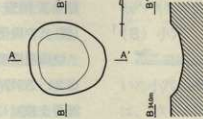
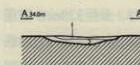
SK 19



SK 22



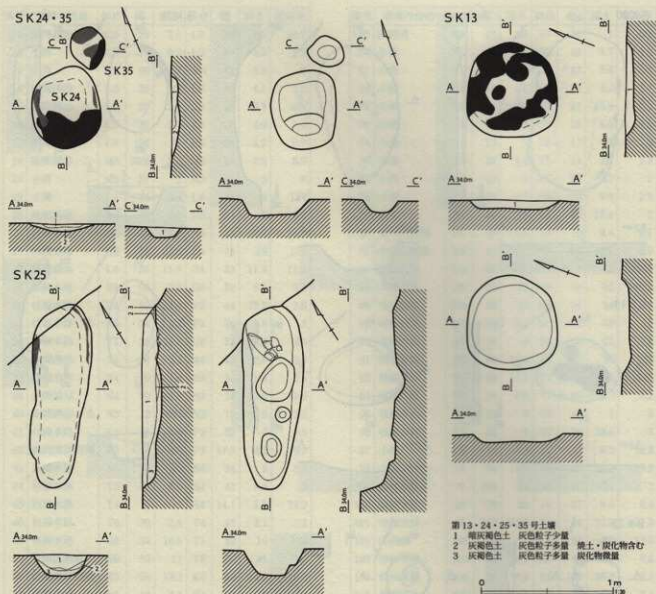
SK 23



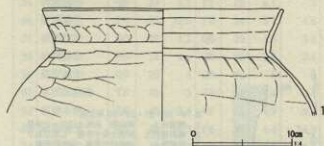
- 第 19・20・21・22・23 号土層
 1 暗褐色土 炭化物 灰土ブロック少量
 2 暗灰褐色土 灰土粒子少量 しまりあり
 3 灰褐色土 灰土粒子多量 炭化物微量
 4 暗褐色土 白色土ブロック・灰土粒子少量 炭化物多量

0 1 m

第274図 焼成遺構 (1)



第275図 焼成遺構 (2)



第276図 焼成遺構出土遺物

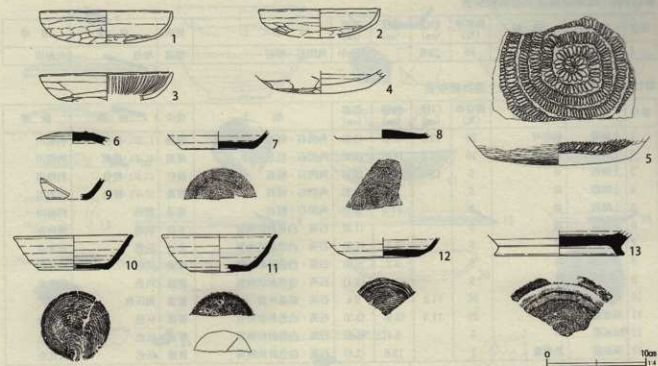
(6) 焼成遺構 (第274～276図)

5次調査区の北西に8基の焼成遺構を検出した。遺構確認の段階では、竪穴住居跡のカマドと認識した場合もあったが、住居跡に相当する掘り込み

も無い。また焚口に相当する場所もない。そこで土壌の番号を付し、記録を進めた。

挿図には、左側に遺構確認の状態。右側に掘り方まで精査した状態を掲載した。なお、焼土(網)、や炭化物(黒ベタ)は堆積層中にみられた。

焼成遺構の形状は、①円形(5次第13・19・21～24・35号土壌)と、②長い楕円形(5次第20・25号土壌)に分かれる。①は、径63cm、深さ5cmの浅いすり鉢状である。②は、長径120cm、短径80cm、深さ20cmの深い土壌状である。掘り方の底面は水平である。しかし、第25号土壌のみ、底面に複数のビットを検出した。



第277図 土器片集積遺構出土遺物

遺物は乏しく、わずかに第25号土壌から土師器の壺(第276図1)が出土したに過ぎない。この壺は、器肉がとても薄い壺である。口縁部は、「く」の字に曲がる。

(7) 土器片集積遺構

3次調査区のI・J・K-13・14グリッド、4次調査区のL・M・N-12グリッド、およびO・P-11・12グリッドの三箇所に、奈良時代から平安時代にかけての土師器や須恵器の細片が、集中して出土した。第233・234・237図の点線部分である。竪穴状遺構とした4次第23号住居跡も土器の細片が出土したが、ここにあげた土器集積遺構は、明確な掘り込みを検出できなかった。

なお、土器片の集積にあたり、器種を選択したとは考えられない。しかし実測掲載個体は、食器だけとなった。出土地点については、観察表を参照していただきたい。出土遺物を第277図に掲載した。1～3は、土師器の坏である。1・2は、碗形の坏である。3は、内面に粗い放射状の暗文を施す。

4・5は、土師器の鉢である。5は、内面に中心部から口縁部に向かって、やや粗い螺旋文を施す。外面に細かなヘラミガキが施される。4も5と器形が近似することから、暗文を施す土器の系譜を引く土器と考えられる。

6は、須恵器の蓋である。摘みを欠く。

7～12は、須恵器の坏である。7～9・11・12は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。10は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。

13は、須恵器の長頸壺である。底部の周囲に回転ヘラケズリを行った後、高台をめぐる。

(8) 小穴

ここでは、掘立柱建物や竪穴住居跡の柱穴を除いた小穴(pit)について述べたい。皿沼西遺跡では、3次～5次調査にかけて、多数の小穴を検出した。小穴は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡など、古代集落を構成する遺構が集中する自然堤防の高所にみられた。

小穴には、柵列の柱穴と考えられる小穴もある。

第119表 焼成遺構出土遺物観察表

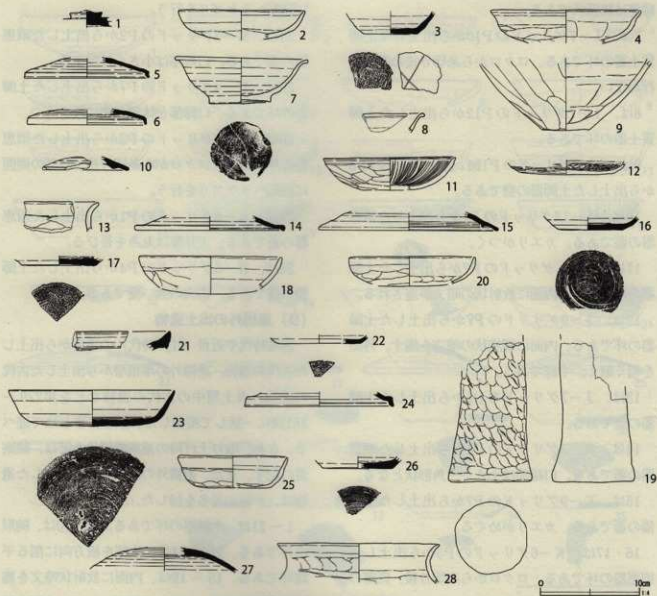
番号	種 別	器 種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	焼成	色 調	備 考
1	土師器	壺	10	23.9		(10.6)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川

第120表 土器片集積遺構出土遺物観察表

番号	種 別	器 種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	焼成	色 調	備 考
1	土師器	碗形杯	20	13.2	(5.5)	(3.2)	角閃石・軽石	普通	にぶい・橙色	利根川
2	土師器	碗形杯	10	12.0	(4.9)	(2.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい・橙色	利根川
3	土師器	杯	5	13.2		(2.8)	角閃石・軽石	良好	にぶい・橙色	利根川
4	土師器	鉢	5		9.5	(2.3)	角閃石・軽石	普通	にぶい・橙色	利根川
5	土師器	鉢	5		14.5	(2.9)	角閃石・軽石	普通	橙色	利根川
6	須恵器	蓋	5			(1.3)	石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企
7	須恵器	杯	5		7.1	(1.8)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
8	須恵器	杯	5		9.2	(0.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
9	須恵器	杯	5			(2.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
10	須恵器	杯	50	11.2	7.0	3.4	石英・結晶片岩	普通	褐色	末野
11	須恵器	杯	20	11.3	(5.9)	(3.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
12	須恵器	杯	5		6.4	(1.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
13	須恵器	長頸壺	5		12.8	(2.5)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企

第121表 小穴出土遺物観察表

番号	種 別	器 種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	焼成	色 調	備 考
1	須恵器	蓋	5			(1.6)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
2	土師器	碗形杯	10	12.6		(2.9)	角閃石・軽石	普通	明褐色	利根川
3	須恵器	杯	10		5.3	(2.8)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
4	土師器	碗形杯	20	14.8		(3.4)	角閃石・軽石・石英	普通	褐色	利根川
5	須恵器	蓋	10	(12.5)		(2.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
6	須恵器	蓋	10	(11.8)		(1.6)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
7	土師質土器	杯	30	13.0	6.1	4.6	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
8	土師質土器	杯	5			(1.8)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
9	土師器	甕	10		4.7	(7.0)	角閃石・軽石	普通	にぶい・褐色	利根川
10	須恵器	蓋	5			(1.3)	石英・片岩	普通	灰色	末野
11	土師器	杯	10	13.1	(5.1)	(3.3)	石英・軽石	良好	褐色	利根川
12	土師器	杯	20		9.4	(1.5)	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
13	土師器	甕	5			(3.2)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
14	須恵器	蓋	5	(14.7)		(1.5)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
15	須恵器	蓋	5	(17.8)		(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
16	須恵器	杯	10		6.4	(1.4)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
17	須恵器	杯	5		6.8	(0.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
18	土師器	碗形杯	10	14.2		(3.3)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
19	土製品	支脚	60				角閃石・軽石		にぶい・褐色	利根川
20	土師器	碗形杯	10	12.5		(2.8)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
21	須恵器	甕	5			(1.9)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
22	須恵器	杯	5		(8.0)	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
23	須恵器	杯	30	16.5	11.5	3.6	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
24	須恵器	蓋	5	(14.8)		(1.5)	石英・白色針状物質	普通	黄灰色	南比企
25	土師器	杯	30	10.8	(7.7)	(3.1)	角閃石・軽石	普通	明褐色	利根川
26	須恵器	杯	5		(7.0)	(1.2)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
27	須恵器	蓋	10			(2.5)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
28	土師器	甕	5	16.1		(4.0)	角閃石・輝石・鉄粒子	良好	明褐色	ローマ台地



第278図 小穴出土遺物

しかし、ここでは、個々の小穴に性格を限定しないこととした。小穴については、発掘調査で平面形状、掘り込み深さについて、記録を残した。遺構番号は、グリッドごとに遺物の出土した小穴のみに付与した。

また、出土した遺物のうち実測可能な個体は、図化を行い第278図に掲載した。以下、調査次数を分けず、グリッドのアルファベット、算用数字順に遺物の記述を行う。

1は、I-3グリッドのP1から出土した須恵器の蓋である。ボタン状摘みである。

2は、I-5グリッドのP1から出土した土師器

の碗形の坏である。

3は、H-9グリッドのP5から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。「X」のヘラ記号が底部に残る。

4は、H-7グリッドのP7から出土した土師器の坏である。大きく外反する皿形の坏である。

5は、H-9グリッドのP10から出土した須恵器の蓋である。天井部は低く、直線的である。口縁部は鶴頸状である。

6は、H-9グリッドのP11から出土した須恵器の蓋である。天井部は低く、直線的である。口

縁部は鶴頸状である。

7は、I-7グリッドのP10から出土した土師質土器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。

8は、I-7グリッドのP12から出土した土師質土器の坏である。

9は、I-7グリッドのP101、同グリッドのP6から出土した土師器の甕である。

10は、I-12グリッドのP1から出土した須恵器の蓋である。カエリがつく。

11は、J-8グリッドのP7から出土した土師器の坏である。内面に放射状の暗文が施される。

12は、J-9グリッドのP7から出土した土師器の坏である。内面に螺旋状の暗文を施す。外面を粗く磨く。平底である。

13は、J-7グリッドのP2から出土した土師器の甕である。

14は、K-3グリッドのP1から出土した須恵器の蓋である。口縁部は小さく三角形となる。

15は、K-9グリッドのP7から出土した須恵器の蓋である。カエリがめぐる。

16・17は、K-6グリッドのP3から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。

18は、K-8グリッドのP6から出土した土師器の坏である。深い碗形の坏である。

19は、J-8グリッドのP7とK-10グリッドから出土した土製の支脚である。上部を欠く。

20は、K-8グリッドのP16から出土した土師器の坏である。碗形の坏である。

21は、L-3グリッドのP1から出土した須恵器の甕である。

22は、L-4グリッドのP1から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。

23は、L-6グリッドのP1から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の全面

に回転ヘラケズリを行う。

24は、M-3グリッドのP2から出土した須恵器の蓋である。口唇部は小さく外反する。

25は、P-4グリッドのP7から出土した土師器の坏である。口縁部と体部の間に段をもつ。

26は、R-8グリッドのP2から出土した須恵器の坏である。ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。

27は、R-8グリッドのP1から出土した須恵器の蓋である。天井部は丸みを帯びる。

28は、R-5グリッドのP4から出土した土師器の甕である。器内の薄い甕である。

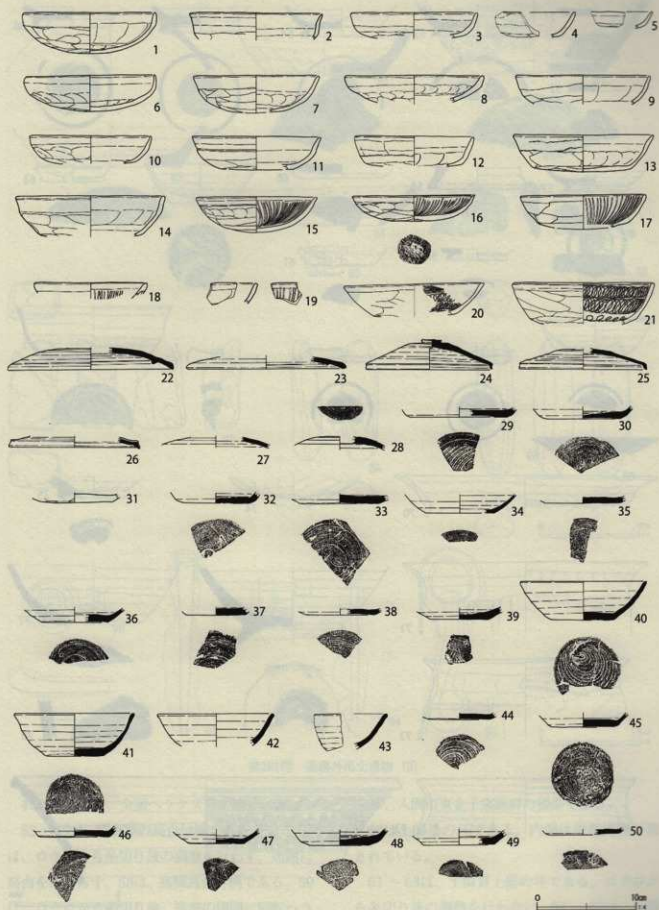
(9) 遺構外の出土遺物

古墳時代や近世（江戸時代）の遺構から出土した古代の遺物、遺構外の堆積層から出土した古代の遺物、表土層中の古代の遺物などを第279～281図に一括して掲載した。以下にまとめて述べる。なお、取り上げ時の遺構や層位などは、観察表に記す。また、遺構外の堆積層から出土した遺物は、グリッド名を付した。

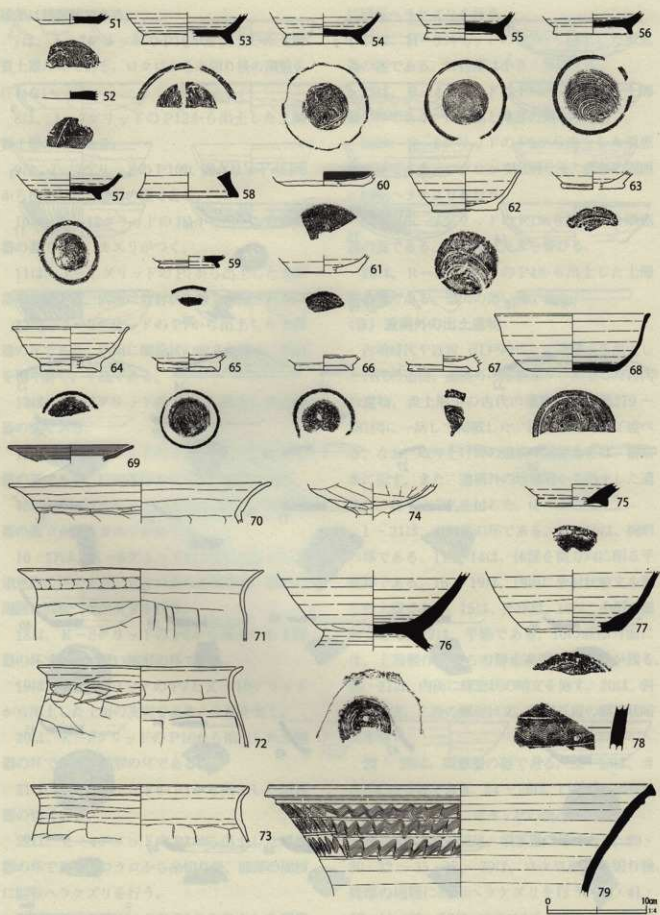
1～21は、土師器の坏である。1～10は、碗形の坏である。11～14は、体部を横方向に削る平底坏である。15～19は、内面に放射状暗文を施した土器である。15は、半球形、16は、小型の皿形である。17は、平底である。16の底部外面には、土器製作台からの静止糸切りの痕跡が残る。20・21は、内面に螺旋状の暗文を施す。20は、斜行状暗文、二段の螺旋状文、21は三段の螺旋状暗文を施す。

22～28は、須恵器の蓋である。22・23は、カエリのある蓋である。24～26は、口縁部が鶴頸状に突出する。24は、ボタン状の摘みがつく。

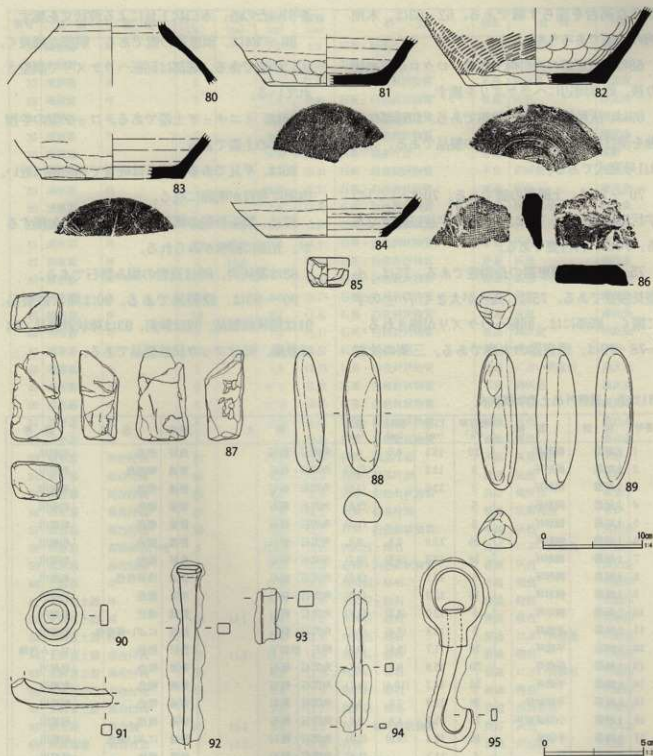
29・30・32～52は、須恵器の坏である。29・30・32～35・37～39は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行う。36・41・42・44・46～52は、ロクロから糸切り後の調整を行わない。32は、底部外面中央に圏線が施される。



第279図 遺構外の出土遺物 (1)



第280図 遺構外出土遺物 (2)



第281図 遺構外出土遺物 (3)

45は糸切り後、全面ヘラケズリが施される。

53～59は、須恵器の高台付碗である。53～57は、ロクロから糸切り後の調整を行わず、周囲に高台をめぐらす。58は、高脚高台付碗である。59は、ロクロから糸切り後、底部の周囲に回転ヘラケズリを行い、小さな高台を巡らした碗である。

55は、入間市東金子窯跡群の製品である。

60は土師器の坏である。内側は黒色処理が施されている。

61～63は、土師質土器の坏である。ロクロから糸切り後の調整を行わない。64～67は、土師質土器の高台付碗である。ロクロから糸切り後、

小さな高台を巡らす椀である。62・63は、木地椀の模倣であろうか。

68は、須恵器の無台椀である。ロクロから糸切り後、底部周辺にヘラケズリを施す。

69は、灰釉陶器の高台付皿である。口縁部に灰釉を漬け掛ける。東濃地方の製品である。虎溪山1号窯式である。

70～74は、土師器の甕である。70は、「く」の字状口縁甕、71・72は、「コ」の字状口縁甕である。74は、台付甕である。

75～77は、須恵器の長頸甕である。75は、小型長頸甕である。75は、高台が大きく「ハ」の字に開く。底部には、回転ヘラケズリが施される。

78・79は、須恵器の大甕である。三条の沈線

を引いたのち、木口状工具による波状文を施す。

80～84は、須恵器の壺である。胴部が細長く、広口の壺である。底部は回転ヘラケズリで調整されている。

85は、ミニチュア土器である。コップ型の手捏ね成形の土器である。

86は、平瓦である。焼きは硬質で須恵器に近い。内面に布目が明瞭に残る。

87は、凝灰岩製の砥石である。上部が欠損するが、五面に擦痕がみられる。

88は凝灰岩、89は頁岩の編み物石である。

90～95は、鉄製品である。90は環状鉄製品、91は棒状鉄製品、92は鉄釘、93は棒状鉄製品、94は鉄鎌、95はフック状鉄製品である。

第122表 遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率(%)	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	椀形杯	20	13.1	8.0	4.1	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
2	土師器	椀形杯	5	13.2	(2.7)		角閃石・軽石	普通	明褐色	利根川
3	土師器	椀形杯	5	12.5		(2.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
4	土師器	椀形杯	5			(2.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
5	土師器	椀形杯	5			(1.5)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
6	土師器	椀形杯	20	12.8	2.5	3.6	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
7	土師器	椀形杯	10	12.5	(5.6)	(3.7)	角閃石・軽石	良好	褐色	利根川
8	土師器	椀形杯	5	13.7		(2.8)	角閃石・軽石	普通	淡黄褐色	利根川
9	土師器	椀形杯	10	13.3		(3.0)	角閃石・軽石	不良	褐色	利根川
10	土師器	椀形杯	5	12.0	(8.2)	(2.7)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
11	土師器	平底杯	5	12.8	(7.4)	(3.3)	角閃石・軽石	普通	にぶい黄褐色	利根川
12	土師器	平底杯	10	11.7	(9.6)	(3.1)	輝石・鉄粒	良好	褐色	ローマ台地
13	土師器	平底杯	30	13.9	9.9	3.7	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
14	土師器	平底杯	20	14.7	(10.4)	(4.1)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
15	土師器	半球形杯	30	11.9	7.8	3.6	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
16	土師器	小型重形杯	70	12.1	4.8	2.6	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
17	土師器	平底杯	10	12.4	(9.0)	(3.5)	角閃石・軽石	普通	にぶい褐色	利根川
18	土師器	杯	5	11.1		(1.6)	角閃石・軽石	普通	褐色	利根川
19	土師器	杯	5			(2.2)	角閃石・軽石	普通	明褐色	利根川
20	土師器	杯	5	13.9	(8.1)	(3.3)	角閃石・軽石	普通	明褐色	利根川
21	土師器	杯	10	14.0	(8.5)	(4.2)	角閃石・軽石	良好	明赤褐色	利根川
22	須恵器	蓋	5	(16.5)		(2.2)	石英・白色針状物質	普通	黄灰色	南比企
23	須恵器	蓋	5	(15.6)		(1.2)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企
24	須恵器	蓋	30	12.7		3.0	石英・白色針状物質	普通	褐灰色	南比企
25	須恵器	蓋	20	(12.7)		2.1	石英・白色針状物質	不良	灰黄褐色	南比企
26	須恵器	蓋	5	(12.9)		(1.1)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
27	須恵器	蓋	5			(1.1)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
28	須恵器	蓋	10			(1.4)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
29	須恵器	杯	5		(9.7)	(0.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企

番号	種 別	器 種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	焼成	色 調	備 考
30	須恵器	坏	5		7.3	1.3	石英・結晶片岩	良好	明褐色	末野
31	土師器	坏	10		7.0	(0.9)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
32	須恵器	坏	5		6.6	(1.2)	石英・白色針状物質	不良	灰灰色	南比企
33	須恵器	坏	5		7.8	(0.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
34	須恵器	坏	5		(6.9)	(1.9)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
35	須恵器	坏	5		7.5	(0.8)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
36	須恵器	坏	5		(6.6)	(1.4)	石英・結晶片岩	普通	灰黄褐色	末野
37	須恵器	坏	5		5.8	(0.8)	石英・白色針状物質	不良	黄灰色	南比企
38	須恵器	坏	5		(6.9)	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
39	須恵器	坏	5		5.8	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰黄褐色	南比企
40	須恵器	坏	50	12.5	6.1	3.9	石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企
41	須恵器	坏	40	11.8	5.9	4.4	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
42	須恵器	坏	5	11.4		(3.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
43	須恵器	坏	5			(3.6)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
44	須恵器	坏	5		6.0	(0.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
45	須恵器	坏	10		6.2	(1.4)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
46	須恵器	坏	5		7.0	(1.1)	石英・白色針状物質	普通	褐色	南比企
47	須恵器	坏	5		5.1	(1.5)	石英・結晶片岩	良好	灰色	末野
48	須恵器	坏	5		5.9	(1.7)	石英・白色針状物質	普通	にぶい、黄褐色	南比企
49	須恵器	坏	5		(7.1)	(1.4)	石英・白色針状物質	不良	褐色	南比企
50	須恵器	坏	5		(7.0)	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
51	須恵器	坏	5		(5.8)	(1.0)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
52	須恵器	坏	5		(0.8)	(0.8)	石英・白色針状物質	普通	棕色	南比企
53	須恵器	高台付碗	10		(9.1)	(3.0)	石英・結晶片岩	不良	灰黄褐色	末野
54	須恵器	高台付碗	20		8.1	(3.3)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
55	須恵器	高台付碗	20		8.2	(2.8)	石英・白色針状物質	良好	褐色	東金子
56	須恵器	高台付碗	20		7.5	(2.3)	石英・結晶片岩	普通	灰黄褐色	末野
57	須恵器	高台付碗	20		6.0	(2.7)	石英・白色針状物質	不良	灰色	南比企
58	須恵器	高脚高台付碗	5		(10.0)	(2.6)	角閃石・軽石	良好	にぶい、黄褐色	利根川
59	須恵器	高台付碗	5		(6.0)	(1.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
60	土師器	坏	5		(7.9)	(1.4)	角閃石・軽石	不良	褐色	利根川
61	土師質土器	坏	5		(6.7)	(1.8)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
62	土師質土器	坏	20	11.1	6.4	(4.0)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
63	土師質土器	坏	5		(5.9)	(1.9)	角閃石・軽石	普通	にぶい、黄褐色	利根川
64	土師質土器	高台付碗	30	11.5	(5.7)	(4.5)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
65	土師質土器	高台付碗	10		6.0	(1.8)	角閃石・軽石	普通	にぶい、黄褐色	利根川
66	土師質土器	高台付碗	10		5.5	(1.5)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
67	土師質土器	高台付碗	5		7.0	(1.7)	角閃石・軽石	普通	浅黄褐色	利根川
68	須恵器	無台碗	40	15.5	8.2	5.3	石英・白色針状物質	良好	灰色	南比企
69	灰釉陶器	高台付皿	5	12.3		(1.6)	石英	普通	灰白色	東金子
70	土師器	甕	5	26.0		(4.1)	石英・輝石	普通	棕色	利根川
71	土師器	甕	5	24.7		(7.3)	角閃石・軽石・輝石	普通	棕色	利根川
72	土師器	甕	10	20.5		(8.2)	角閃石・軽石	普通	棕色	利根川
73	土師器	甕	5	21.9		(5.7)	角閃石・軽石	普通	明赤褐色	利根川
74	土師器	台付甕	5			(3.4)	角閃石・軽石	普通	赤褐色	利根川
75	須恵器	長頸壺	5		(6.9)	(2.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
76	須恵器	長頸壺	10			(8.0)	石英・白色針状物質	普通	灰黄色	南比企
77	須恵器	長頸壺	5			(6.3)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
78	須恵器	大甕	5			(4.7)	石英・白色針状物質	普通	灰色	南比企
79	須恵器	大甕	5	38.7		(11.3)	石英	普通	黄灰色	南比企
80	須恵器	壺	5			(6.4)	石英・結晶片岩	良好	褐色	末野

番号	種 別	器 種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎 上	焼成	色 調	備 考
81	須恵器	壺	5		(11.5)	(5.0)	石英・結晶片岩	不良	黄灰色	末野
82	須恵器	壺	10		(14.1)	(7.8)	石英・白色針状物質	良好	黄灰色	南北企
83	須恵器	壺	5		14.2	(4.5)	石英・白色針状物質	良好	灰色	南北企
84	須恵器	壺	5		(12.0)	(4.3)	石英・結晶片岩	普通	灰色	末野
85	土師器	ミニチュア土器	40		3.0	(2.9)	角閃石・軽石	普通	灰色	利根川
86	須恵器	平瓦	10				角閃石・軽石	普通	灰黄色	利根川
87	石製品	砥石	100	全長(9.0) 幅5.2 厚さ3.9 重さ248.0g						
88	川原石	編み物石	100	全長12.2 幅3.8 厚さ3.0 重さ198.6g					淡黄色	
89	川原石	編み物石	100	全長14.0 幅3.9 厚さ4.0 重さ290.0g					灰白色	
90	鉄製品	環状鉄製品	100	径2.2×2.2 幅1.0 厚さ0.4 重さ12.5g					灰色	
91	鉄製品	棒状鉄製品	50	長さ(5.3) 幅0.5 厚さ0.5 重さ8.8g						
92	鉄製品	鉄釘	90	長さ(9.0) 幅0.6 厚さ0.5 重さ28.0g						
93	鉄製品	棒状鉄製品	30	長さ(2.3) 幅0.7 厚さ0.8 重さ4.7g						
94	鉄製品	鉄鏝	80	長さ(6.7) 幅0.4 厚さ0.4 重さ6.5g						
95	鉄製品	フック状鉄製品	100	環・長さ4.4 径3.1 全長9.2 重さ64.9g						

6. 近世の遺構と遺物

近世（江戸時代）の遺構は、調査区の西側から中央にみられた。近世の遺構は、井戸跡、溝跡、小穴などである。遺物の大半は、溝跡から出土した。とくに、屋敷の一部を区画した溝が発見され、西側・北側にさらに広がる可能性が高い。井戸跡を9基、溝跡を24条検出した。

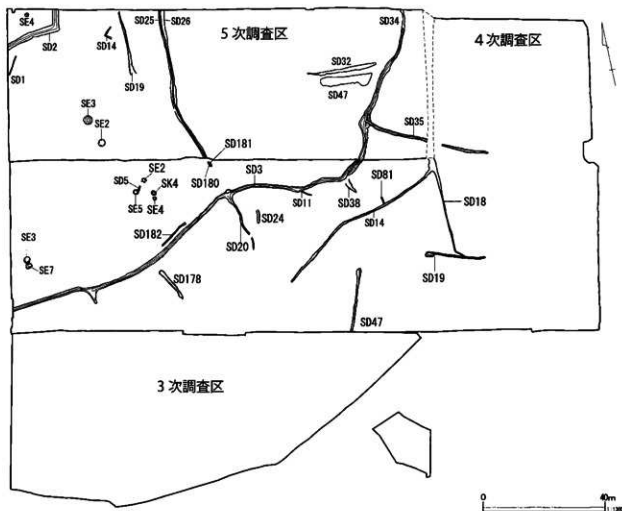
浅間山が江戸時代に噴火して、大量の火山灰を関東平野に降らせた。浅間山A軽石の降下である。この浅間山の火山灰が、皿沼西遺跡でも一部に確認できた。しかし、新田開発やレンガ工場の粘土採掘、耕地整理で書き取られ、平面的な検出はできなかった。近世の皿沼西遺跡は、屋敷跡や水田の広がる農村であった。

(1) 井戸跡

皿沼西遺跡では、4次調査で6基、5次調査で3基の近世の井戸跡を検出した。調査区の西側中央付近に集中していた。大半は、素掘りの井戸であった。4次第3号井戸跡のみ、井戸枠を設置した井戸であった。

4次第1号井戸跡（第283図）

L-8グリッドに位置する。調査区の中央北寄りに検出した。4次第4号溝跡と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は、円形で中型である。掘り方の規模は、長軸1.75m、短軸1.59m、深さ1.43mである。素掘りの井戸である。掘り方は、砂層まで掘り込む。



第282図 近世の全体図

4次第2号井戸跡 (第283図)

L-8グリッドに位置する。調査区の中央北寄りに検出した。4次第4号掘立柱建物跡と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は、円形で中型である。規模は、長軸1.07m、短軸0.98m、深さ1.57mである。素掘りの井戸である。

地表から1mの深さに抉り込みがみられる。ここが、帯水層の上部にあたる。水面の漣で、井戸の壁面を抉り込んだと考えたい。

4次第3号井戸跡 (第283図)

H-10グリッドに位置する。調査区の西端に検出した。4次第16号掘立柱建物跡と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は円形でやや大型である。規模は、長軸2.05m、短軸1.97m、深さ1.47mである。土層断面に井戸枠の痕跡が明瞭にみえる。底幅0.96mの井戸枠であった。

井戸枠内には、地表から1mの深さに人頭大の川原石が投棄されていた。

4次第4号井戸跡 (第283図)

L-9グリッドに位置する。調査区の中央北寄りに検出した。4次第4号掘立柱建物跡と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は円形で小型である。掘り方の規模は、長軸1.15m、短軸1.05m、深さ1.27mである。素掘りの井戸である。

4次第9号井戸跡 (第283図)

L-9グリッドに位置する。調査区の中央北寄りに検出した。4次第3号土壇と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は円形で中型である。掘り方の規模は、長軸1.65m、短軸1.33m、深さ1.65mである。素掘りの井戸である。掘り方の壁面、地表から1mに抉り込みがみられる。ここが、帯水層の上部にあたる。水面の漣が、井戸の側面を抉り込んだ。

4次第10号井戸跡 (第283図)

H-10グリッドに位置する。調査区の中央北寄りに検出した。4次第6号土壇と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は円形でやや大型である。

規模は、長軸2.05m、短軸1.72m、深さ0.75mである。素掘りの井戸である。底面が浅く、井戸として機能していたか疑問が残る。

5次第2号井戸跡 (第284図)

K-7グリッドに位置する。調査区の西よりに検出した。5次第103号溝跡と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は円形で大型である。規模は、長軸2.19m、短軸2.18m、深さ1.35mである。素掘りの井戸である。

5次第3号井戸跡 (第284図)

K-6グリッドに位置する。調査区の西よりに検出した。5次第85号溝跡と重複し、それより新しい。井戸の掘り方は円形で大型である。規模は、長軸2.86m、短軸2.78m、深さ1.41mである。すり鉢状の掘り方であり、井戸底の径は、0.99mとなる。底面に人頭大の角礫を「コ」の字形に配置し、その中に曲げ物を据えていた。曲げ物は、径20cm、高さ10cmほどの大きさであったが、脆弱で取り上げられなかった。複数方向から埋戻しが行われた。

5次第4号井戸跡 (第284図)

I-2グリッドに位置する。調査区の西よりに検出した。井戸の掘り方は円形で小型である。規模は、長軸1.26m、短軸1.11m、深さ1.24mである。素掘りの井戸である。底面は水平である。

(2) 溝跡

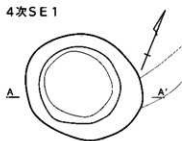
皿沼西遺跡では、3次調査5条、4次調査10条、5次調査9条を検出した。3～5次調査区の低地に近世の溝は、みられなかった。溝は、屋敷の区画溝、道路の側溝、灌漑用水路(幹線水路、枝線水路)などと考えられる。なお、溝の平面図は、古代の溝とともに割図(第226～228・231～239図)で掲載し、土層断面図(第286・287図)は、遺構番号ごとに掲載した。

ⅰ 屋敷の区画溝

5次第2号溝跡 (第285図)

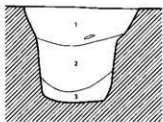
5次調査区の北西隅(I-3グリッド)に検出し

4次SE1

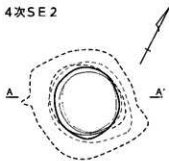


A 24.1m

A'

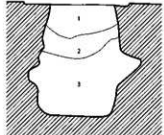


4次SE2

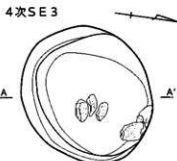


A 24.0m

A'

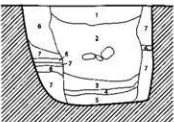


4次SE3



A 24.2m

A'



4次第1号井戸跡

- 1 黒褐色土 砂粒子・焼土粒子少量
粘性・しまりややあり
- 2 黒褐色土 埴の下段に砂粒子多量
硬土・炭化物粒子少量
粘性・しまりややあり
- 3 暗褐色土 ローム粒子・灰色土ブロック
互層 砂粒子多量
しまりなし 粘性ややあり

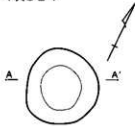
4次第2号井戸跡

- 1 黄褐色土 黒色土ブロック少量
しまりあり 砂質
- 2 黄褐色土 灰色土ブロック多量 砂質
粘性ややあり しまりあり
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量
砂粒子を含む

4次第3号井戸跡

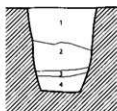
- 1 暗褐色土 白色粒子少量
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子少量
- 3 暗黄褐色土 しまりあり
- 4 黒褐色土 粘質土
- 5 暗黄褐色土 しまりきわめて強い
- 6 黒褐色土 粘性強い
- 7 暗黄褐色土 粘性強い

4次SE4

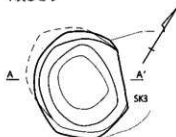


A 24.1m

A'

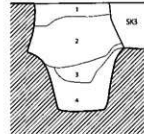


4次SE9

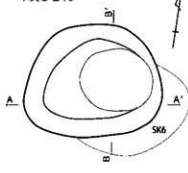


A 24.1m

A'

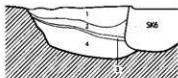


4次SE10



A 24.2m

A'



B 24.2m

B'

4次第4号井戸跡

- 1 暗黄褐色土 暗褐色土・黄褐色土互層
砂粒多量
- 2 暗黄褐色土 小石少量 砂粒子多量 砂質
- 3 暗褐色土 黄褐色土少量 粘性ややあり
- 4 暗黄褐色土 砂粒子・小石多量

4次第9号井戸跡

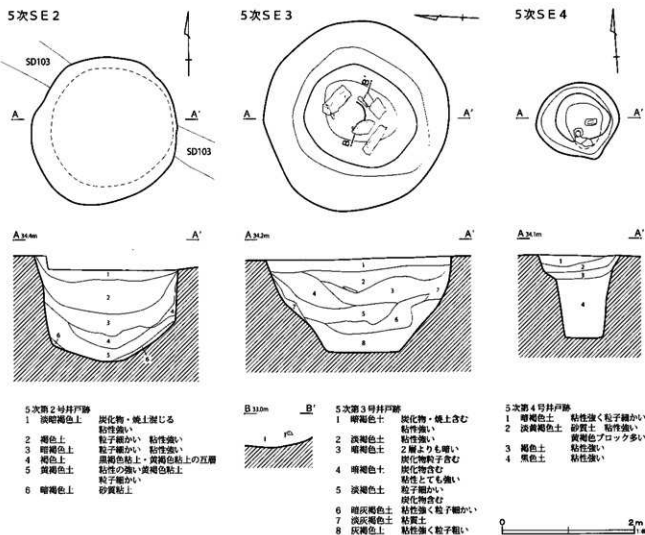
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量
- 2 黒褐色土 焼土粒子少量
- 3 暗褐色土 ロームブロック多量
- 4 暗黄褐色土 砂粒子 小石多量

4次第10号井戸跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 2 暗褐色土 焼土粒子少量
- 3 黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量
- 4 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量
黄褐色土粒子・ブロックやや多い

0 2m

第283図 井戸跡 (1)



第284図 井戸跡 (2)

た。「L」字形に屈曲する第2号溝跡である。溝の断面形状は、「V」字形に広がり、中央部がさらに深くなる「薬研堀」となる。浅間山A軽石との関係性は、明らかにできなかった。

規模は、東西の溝が長さ18m、幅1.65m、深さ0.95mである。また、南北の溝は、長さ7.0m、幅2.0m、深さ1.15mである。

東南の角から3.6mに、5次第2号溝跡を渡る橋脚の基礎を検出した。この橋脚は、溝が70cm底面から、埋まった段階に作られた。中央には、10cmほど円形に掘り込んだ部分があり、ここに橋脚が据えられていた。その円形小穴の周りに、人頭大の角礫を寄せていた。角礫は、橋脚の柱を押さえていたと考えたい。橋脚の柱穴は、東西に並ぶ。

橋脚間の幅は、1.0mである。

この溝から、第285図1～3の在地産の鉢が出土した。いずれも口縁部破片である。1は、わずかに内湾する。2は器壁が薄く、口縁は外反する。3は内面が直線状に立ち上がる。1・3は灰色から黒灰色であり、胎土に赤色粒、砂粒を含む。3は角閃石を多く含む。2は暗褐色であり、赤色粒と白色の細粒を多く含む。前記の2点より焼成は良く硬質である。成形はいずれも粘土紐である。

ii 道路の側溝

5次第1号溝跡

5次調査区の西端、I-4グリッドに検出した。調査区の西側壁面に道路跡の硬化面を確認したが、平面的な広がりには確認できなかった。浅間山B軽

石が、溝の埋土に混じっていた。5次第1号溝跡は、東側溝と考えたが、西側溝は検出できなかった。この道路跡は、第2号溝跡の橋脚付近へ向かう。

iii 灌溉用水路

(幹線水路、枝線水路)

調査区の中央を蛇行しながら、東西の幹線水路（4次第3号溝跡）、南北の幹線水路（5次第25号溝跡）が走る。とくに4次第3号溝跡からは、南や東の低地へ下る枝線水路が伸びる。この枝線水路は、およそ30mおきに設けられたようである。

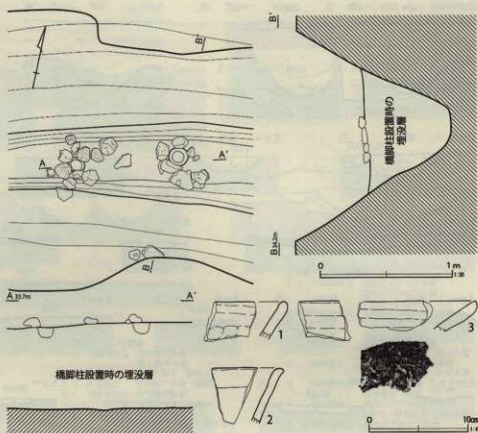
なお、枝線水路からさらに分岐した溝跡はない。

4次第3号溝跡（第288図）

G-11グリッドから東に向かい、J-11グリッドで3次第4号溝跡へ分岐する。本流は、東へ流れ、L-11グリッドで4次第178溝跡を分岐する。さらに本流は北東に流れ、O-9グリッドで4次第20号溝跡を分岐し、再び東流するとS-10グリッドで4次第38号溝跡を分岐する。そこから北東へ流れた本流は、S-8グリッドで5次第35号溝跡を分岐し、さらに北流を続けた。

この4次第3号溝跡は、5次第34号溝跡と同一である。G-11グリッドで溝の幅1.1m、深さ0.25m、U-5グリッドで幅1.15m、深さ0.25mである。

磁器、陶器を中心として焙烙や煙管などの金属製品が出土した。磁器では染付碗が多く26片である。波佐見系はさみのくわんか碗や雨降り文があり、



第285図 5次第2号溝跡橋脚遺構・出土遺物

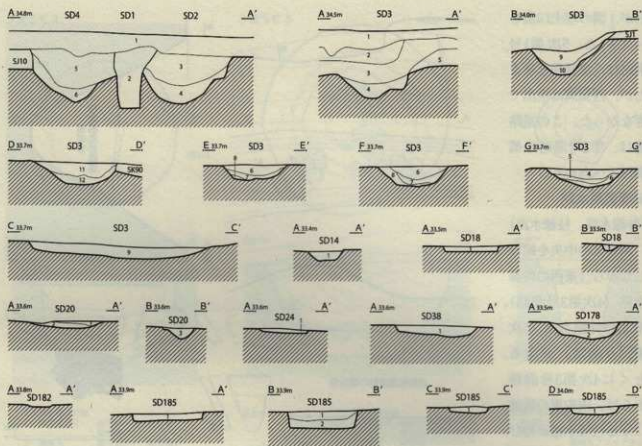
18世紀代が中心である。皿は5片出土したが、文様は^{なつかしくさかん}新唐草文などに碗に比べ後出的である。陶器は、碗、皿、^{ひしやく}乗燭、瓶、壺、鉢がある。

碗では、瀬戸美濃系の鉄釉と灰釉の掛け分け碗や天目碗の小片がある。皿は、瀬戸美濃系の菊花皿、灯明皿、灯明受皿、唐津産大皿などがある。鉢は、片口鉢、火鉢のほかに^{せつ}炬燵の^{すりばち}搥鉢がある。搥鉢は瀬戸系のほか明石・堺系、信楽系がある。焙烙は有耳黒色と赤褐色がある。

土器は、かわらけ、焙烙、火鉢がある。焙烙は、黒色で有耳と赤褐色で無耳がある。火鉢は、素口縁と口縁部に花文のスタンプを施す2種がある。

土製品としては、瓦がある。種類は丸瓦、平瓦、棧瓦である。遺物の時期は、17世紀末から19世紀にわたるが、中心は18世紀後半である。

1～6は、磁器染付碗である。1は、胎土がやや暗い灰色である。釉は、やや厚く貫入がある。肥



4次第1・2・4号溝跡

- 1 粘土 ロームブロック多量
- 2 暗灰色土 浅間山A軽石多量
- 3 暗灰色土 ロームブロック多量
- 4 暗灰色土 砂粒多量 鉄分付着が強い
- 5 暗灰色土 砂粒多量
- 6 暗灰色土 砂粒多量

4次第3号溝跡

- 1 耕作土 灰色土ブロック多量 炭土・炭化物粒子少量
- 2 黒褐色土 炭分多量 粘質土 砂利少量 炭分・砂粒や多い
- 3 暗灰色土 砂利少量 粘質土 砂利多量
- 4 暗灰色土 浅間山A軽石や多い
- 5 黒褐色土 浅間山A軽石少量 粘性強い
- 6 暗灰色土 浅間山A軽石多量
- 7 暗灰色土 浅間山A軽石 粘性強い
- 8 暗灰色土 浅間山A軽石 粘性強い
- 9 暗灰色土 浅間山A軽石多量

10 灰褐色粘質土

- 11 暗褐色土 白色粒子少量
- 12 暗褐色土 白色粒子 黄褐色粒子を混入 しまり・粘性強い
- 13 暗褐色土 白色粒子 黄褐色粒子や多い しまり・粘性強い

4次第14号溝跡

- 1 黒褐色土 炭化物粒子 粘質土

4次第18号溝跡

- 1 暗灰色土 炭化物粒子少量

4次第20号溝跡

- 1 暗灰色土 浅間山A軽石少量
- 2 暗灰色土 浅間山A軽石多量
- 3 灰色土 黒色粒子少量

4次第24号溝跡

- 1 暗褐色土 浅間山B軽石少量

4次第38号溝跡

- 1 暗褐色土 浅間山A軽石少量

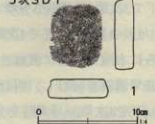
4次第178号溝跡

- 1 暗褐色土 黒褐色土を挟む 炭化物・粘土粒子少量
- 2 黒褐色土 小石多量 しまり強い

4次第185号溝跡

- 1 暗褐色土 砂粒 白色粒子・黄褐色土粒子を含む しまりや弱い
- 2 暗褐色土 砂粒 白色粒子・黄褐色土粒子を含む しまりや弱い

5次SD1



第286図 溝跡土層断面図 (1)・出土遺物

前系。17世紀末～18世紀前半。

2は、丸形の中碗である。復元口径9cm、復元底径4.2cm、器高4.3cmである。胎土は、白色で緻密である。肥前系。18世紀前半。

3は、胎土は白色で緻密である。内面は1本線の網目で、見込みは二重図線の中に花文状に描かれ、

外面は2本線網目が筆書きされる。高台内は無文である。肥前系。18世紀前半。高台に沿うように二次的に体部を打ち欠き円盤状に加工する。何らかの目的で二次的に加工したと考えられる。

4は、丸形の中碗である。胎土は白色で緻密である。文様は花唐草文である。18世紀前半。

第123表 溝跡一覧表

番号	遺構の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
田沼西遺跡 4次								
3	幹線水路	G11	98	32.6	S9	44	38	35
5	近世	L8	27	14.8	L8	40	22.6	6.3
11	小溝	Q10	11	2	Q10	32	3	16.3
14	枝線水路	U10	112	6.9	P12	40	3.5	20
18	枝線水路	U9	204	6.2	V13	26	3.3	0
20	枝線水路	O11	20	0.3	O9	156	27.1	6.5
24	小溝	O10	60	9.3	O10	68	3.4	7.7
38	小溝	S10	30	1.6	S10	15.5	17	172
81	小溝	J14	60	12	J15	70	12.1	5.5
178	枝線水路	L11	13	11.8	L12	80	19.1	33.4
180	幹線水路	N8	28	7	N8	28	7.7	2.7
181	幹線水路	N8	48	8.4	N8	36	6.4	1.4
182	枝線水路	M10	44	6.4	L10	30	3.2	1.8

しは回転糸切りで、底部径3.8cmである。

13、14は、火鉢である。13は、火鉢の口縁部片で、色調は黒色、胎土に赤色粒を含む。焼成は良好である。口縁部は、粘土を帯状に貼り付けて花文のスタンプを二段捺す。14は、復元口径28cm、復元底径22.2cm、残存器高は8.6cmであるが、底部に短い三足が付く。口縁部は内側に肥厚する。色調は、外面灰色、内面黒灰色で、胎土は角閃石と砂粒を少量含む。焼成は良好である。粘土紐成形で、外面下部はヘラケズリ、上部はヘラナデ、内面は、横方向にナデ調整される。

15～18は瓦である。15は丸瓦、16は軒瓦の頸部、17は平瓦、18は棧瓦である。15、16、18は、黒色粒子を多量、角閃石を微量含みやや粗い。15、18は灰色であるが、16は、一部酸化炎により橙褐色となる。いずれも焼成による。17は、胎土に黒色粒子、赤色粒子を多く含み、酸化炎焼成で橙褐色となる。凹面には布目が見られ、他の3点より古い。

19、20は煙管である。19は竹製の羅字である。端部から2.2cmまで回転させて嵌め込む。歪んでおり吸口と合わない。しかし、同一の煙管である。残存長3.5cm。20は銅製の吸口である。肩が張る形である。長さ7.3cm、吸口径5mm、接続部径1.1cm、接続部の内径は約9mmである。

番号	遺構の性格	始点	幅	深さ	終点	幅	深さ	標高差
田沼西遺跡 5次								
1	道路側溝	I3	22	3.7	I4	3	22	3.5
2	屋敷の区画溝	J2	172	94.8	I3	186	108	16.7
19	枝線水路	L3	16	2.6	L5	54	14.1	7.7
25	幹線水路	N3	28	6.8	N8	10	36	0.2
26	幹線水路	N3	2.6	36	N8	11.2	42	2.5
34	幹線水路	S9	94	34.2	V4	56	6.2	4.8
35	枝線水路	T8	74	2.1	U9	87	35	193
47	区画溝	R6	17.5	11.7	T7	31	17	0
82	小溝	Q4	18	2.7	Q4	38	3.9	4.3
83	小溝	Q4	22	6.8	Q4	34	3.1	0.7
87	小溝	N5	84	7	N5	34	3.1	1.3
88	幹線水路	N5	96	16	N8	10	36	0.2

21、22は鉄製品である。21は、棒状で一端が細くなり、その先を欠失する。断面は楕円形である。残存長7cm。22は鉄である。先端と握りの部分を欠失する。残存長5cm。

4次第14号溝跡

4次第3号溝跡と並行し、その南側をめぐる。P-12グリッドから始まり、U-10グリッドまで検出した。同グリッドで4次第18号溝跡が、分岐して南流する。

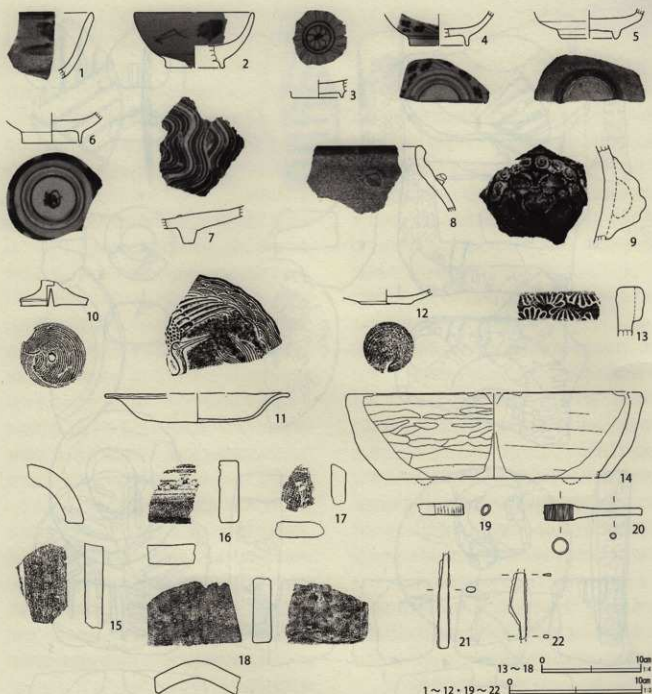
5次第25・26号溝跡

調査区内を南北に流れる幹線水路である。北側は、調査区外となる。南側は、4次第80・81号溝跡となり、途切れる。N-3グリッドからN-8グリッドに向かい流れる。5次第26号溝跡は、第25号溝跡の埋没後、やや東に掘削し直した溝である。4次第3号溝跡から北へ分岐した溝かもしれない。

iv そのほかの溝跡

4次第1号溝跡 (第286図)

4次調査区と5次調査区の間に出検した。耕地整理にかかわる溝であるが、出土遺物に江戸時代にさかのぼる遺物がみられた。磁器、陶器を中心に、ガラス、瓦などの小破片が約30点出土した。染付碗には、波佐見系で18世紀後半代にさかのぼる破片もある。砥石に転用した瓦片を掲載した。



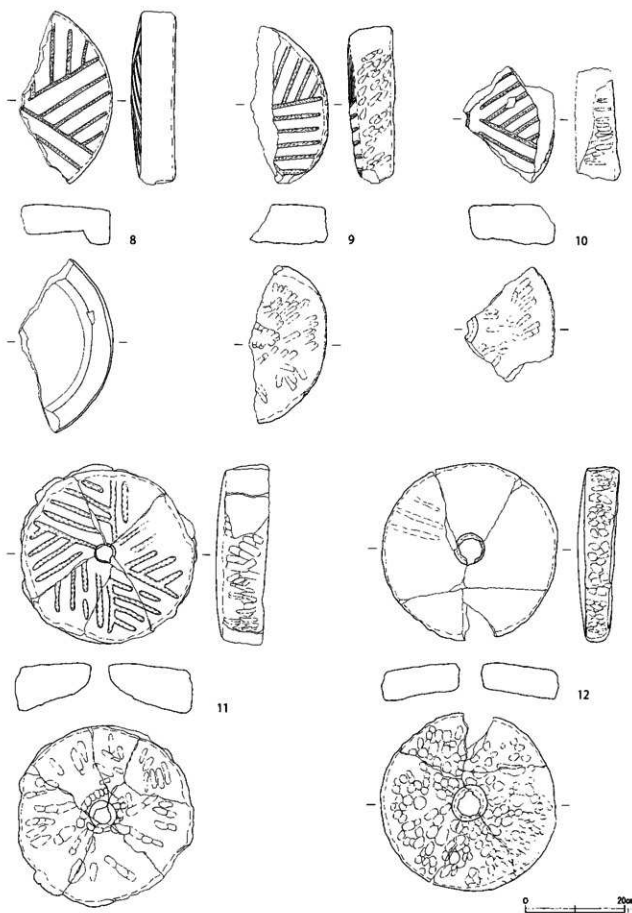
第288図 4次第3号溝跡出土遺物

1は、平瓦あるいは熨斗瓦の破片を転用した砥石である。側面を使用する。大きさは6.8cm×5.8cmである。瓦は煙し焼成である。深谷市周辺で焼成されたいわゆる「深谷瓦」である。

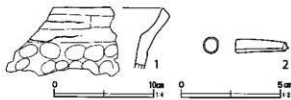
5次第32・47号溝跡（第289・290図）

調査区の東側（S-6グリッド）に検出した。東西に平行した2条の溝である。溝と溝の間は、堤状に掘り残されていた。遺構の重複はない。埋没土は、粘性の弱い灰褐色土であった。

破片となった石製品が、両溝にまたがって出土した。1は手水鉢である。全体の大きさは不明であるが、高さは26cmである。上縁の幅は4cmで、14cm影り窪めている。下面は周囲を1.6cmの深さまで緩やかに影り窪め、中心部を6cmの深さまで影る。外面は成形の鑿痕が残る。残存する側面には、平坦面を作り出すが、銘文等はない。石材は安山岩である。



第290图 5次第32·47号满跡出土遺物(2)



第291図 遺構外出土遺物

2～7は、石塔の一部と考えられる。石材は、いずれも角閃石安山岩である。2は大部分を欠失するが、側面と底面の一部が残る。高さ約13cm、最大径12.8cmの宝珠形と推定した。底面に深さ5cmの孔を穿つ。

3・4は2分の1以上を欠失する。3は、高さ8.8cmで、復元直径は14cmである。中央に径6.4cm、深さ約5cmの孔があく。天地逆かもしれない。平面形状は、隅丸方形と考えられる。4は、高さは17.2cmである。上面に一辺5cm、深さ4cmの方形孔がかけられる。

5は、上面が浅く彫り込まれ、扁平な楕円形である。長径30.6cm、短径26.4cm、高さ15.4cmである。6は、直径約16cmの円柱状と推定できるが詳細は不明である。7も3に類似すると考えられる。

8～12は、全て石臼の下臼である。8は3分の1が残存する。全体に磨滅する。白面は6分画され、主溝は中心から放射状に周縁まで刻まれる。副溝は4本で溝間隔は広い。張りは2.4cmである。復元径40cm、厚さは側面で6.8cm、残存重量4,950gである。安山岩を用いる。

9は、磨滅が激しく片べりしており、すり合わせ部の溝は、一部消滅している。白面は6分画で副溝は5本である。側面および底面は鑿によって調整される。復元径38.4cm、厚さ8.8cm、残存重量

5,590gである。安山岩を用いる。

10も磨滅が激しく片べりしている。白面は、6分画で副溝は5本と推定される。側面および底面は鑿によって調整される。残存厚さ8.8cm、残存重量4,250gである。安山岩を用いる。

11も磨滅が激しく片べりしている。白面は6分画で、副溝は4本である。溝は磨滅により浅くなり、一部は消滅する。張りも1.2cmと低くなる。軸孔は径3.6cmである。側面および底面は鑿によって調整されるが、底面は中心に向かって薄くなる。直径35.6cm、厚さは側面で8.8cm、孔部分で3.2cm、重量は16,030gである。

12は、極端に磨滅し片べりが著しい。溝はほとんど磨滅し、わずかに痕跡が見える。白面は6分画、副溝は4本と推定される。軸孔は直径4.2cmである。側面および底面は、鑿によって調整される。底面は4同様中心に向かって薄くなる。直径34.4cm、厚さは側面で5.6cm、孔部分で4.8cm、重量は12,080gである。

(3) 遺構外の出土遺物

第291図1は、内耳鍋である。古代の5次第8号溝跡上層から出土した。胎土には、白色粒子、赤色粒子、角閃石、石英等を多量に含み焼成は良い。粘土紐による成形である。口縁部は横ナデ、体部外面は指頭痕が残る、内面は横ナデされる。底部が欠ける。15世紀。このほか同溝からは、肥前系磁器染付碗の小片が出土した。

2は、銅製煙管の吸口である。試掘調査のトレンチで出土した吸口端部は折れ曲がり、欠損する。形状は、第288図20と同じく段を持たず、接続部から吸口に向かって細くなる。残存長3.9cm、接続部径0.95cm、接続部の内径は0.85cmである。

IV 戸森前遺跡 (3次・4次) の調査

1. 遺跡の概要

戸森前遺跡は、深谷市の北郊、西島字外谷田に所在する。JR 高崎線深谷駅の北2kmにあり、かつては肥沃な水田地帯であったが、近年は宅地化が進み、新興住宅地となっている。地形的には、福川や小山川と利根川との間に形成された妻沼低地に立地する遺跡である。標高は、35mと低く平坦である。

遺跡の中央を福川が、西から東へ流れ、北側には、皿沼西遺跡との境となる大堀川が、北西から南西に向かって流れる。遺跡の東には、唐沢川が北流する。福川と唐沢川が合流する地点には、「福川伏越樋管」が設けられている。かつて、この三河川の合流する地点は、「皿沼」と呼ぶ沼地があった。しかし、現在では埋め立てられ、浄水場やグラウンドとして整備されている。

これまで、戸森前遺跡は、福川の河川改修 (第1・2次) に伴い発掘調査が行われている。財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が、1994年と1996年に発掘調査を行い、古墳時代前期の竪穴住居跡や同時期の河川跡などを検出した (中村1999)。

今回の発掘調査は、福川伏越樋管近くに設けら

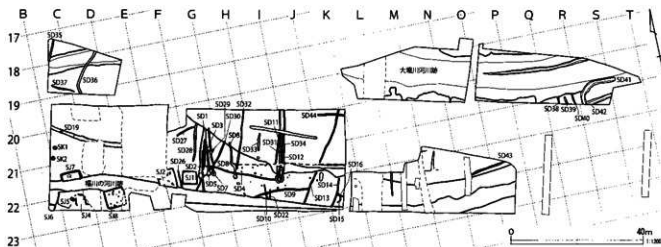
れた福川調節池の建設に伴い実施した。また、福川調節池は、第1・2次調査区に隣接した場所であることから、古墳時代前期の集落や集落の縁辺に流れた河川跡が、明らかとなることが予測された。

発掘調査は、皿沼西遺跡と並行して、第3次調査を平成19年2月1日～3月23日の2ヶ月、第4次調査を平成19年4月1日～7月31日の3ヶ月行った。調査区は、福川の北側から大堀川の南にかけてである。面積は、5,750㎡である。

発掘調査は、まず、大堀川の付け替えに伴い調査区の南側を行い (第3次)、次に北側の調査区 (第4次) の調査を行った。発見された遺構は、古墳時代前期から平安時代にかけての河川跡、古墳時代前期の竪穴住居跡8軒、土壇2基、平安時代の溝跡37条、水田、畠跡などである。また、江戸時代の福川も明らかになった。

出土した遺物には、縄文土器の破片、古墳時代前期から平安時代の土師器や須恵器、古墳時代前期の木器などがあつた。

遺跡の基本土層は、第5図を参照願いたい。まず現地表が、水田として耕作されていたことから、地表10～15cmは、水田耕作層である。その下に



第292図 戸森前遺跡全体図

天明3年(1783)に浅間山の噴火で降下した火山灰(浅間山A軽石As-A)の堆積層が、2~5cmほどあり、その下に粘性の強い江戸時代の水田層が10cmほどある。

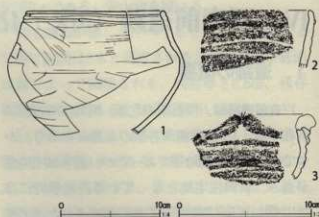
水田層の下には、天仁元年(1108)に浅間山の噴火で降下した火山灰(浅間山B軽石As-B)の堆積層が、2~5cmほどある。その下の黒色土は、平安時代の水田や畑である。

この黒色土を除くと、黄褐色粘土層となる。古墳時代前期の竪穴住居跡や土壇などは、この層を掘り込んで作られている。この粘土層の下には、福川や小山川の運んだ砂層が堆積していた。

2. 縄文時代の遺構と遺物

戸森前遺跡(第3・4次)の発掘調査では、縄文時代の遺構は検出できなかった。しかし、河川跡から、縄文土器の破片が出土した。

第293図1は、深鉢ないし台付鉢形土器で、口縁から胴下半部にかけて残存する。水平口縁で、胴部中段が張り、頸部が「く」の字に屈曲する。口縁は、やや内傾しつつ直行する。口縁直下に二条の沈線が巡る。他は文様を持たない。全面に篋状工具による横位のナデが施される。



第293図 遺構外出土縄文土器

復元径17.8cm、現存高12.4cmである。胎土は砂質で焼成はやや不良、器面は暗灰褐色である。時期は、晩期前葉~中葉と考えられる。

2は、後期の小型深鉢土器で、堀之内2式と考えられる。朝顔形深鉢の口縁部で、口端内屈し、口縁直下に隆帯が巡る。

3は、晩期の土器である。大洞系の浅鉢の口縁部である。口縁部上に山形の突起を配し、胴部には微隆起線文が描かれる。

このほか、3次第3・8号住居跡の埋土から縄文時代後期とみられる底部破片が、それぞれ1点ずつ出土した。

3. 古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

古墳時代の竪穴住居跡は、調査区の西側、自然堤防の北側縁辺および東端に分布していた。古墳時代前期の竪穴住居跡8軒を検出した。遺構の上面は、古代の耕作によって荒れていたが、比較的深い竪穴住居跡もあり、出土遺物も豊富だった。

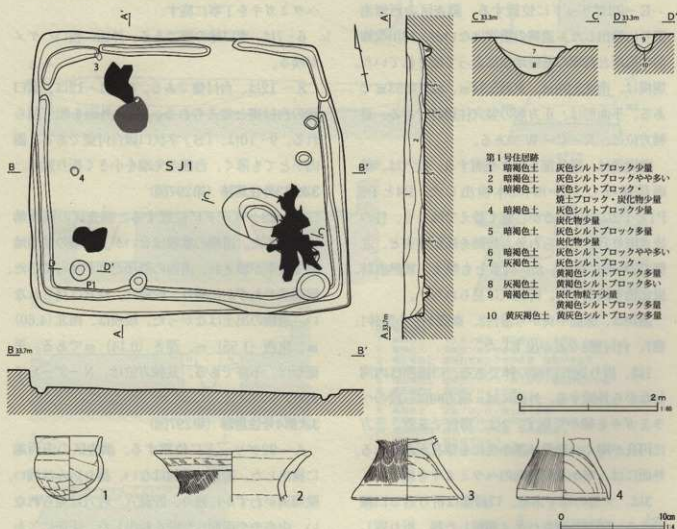
遺物は、土師器の高坏や器台、甕、壺、甗などが出土した。とくに、群馬県東部に分布する「S」字状口縁台付甕と共通した土器が出土した。埼玉県北部と群馬県東部の地域間交流を考える上で貴重な資料である。

なお、古墳時代の遺構は、古代の遺構確認面より10cmほど地表を下げた確認作業を行った。

3次第1号住居跡 (第294図)

F-22グリッドに位置する。調査区の西側南寄りに検出した。遺構の重複はない。規模は、南北3.96m、東西4.51m、深さ0.27mである。平面形は、長方形の竪穴住居跡である。長軸方位は、N-80°-Wである。

壁周溝は、北壁と西壁の一部で途切れるが全周する。床面の3か所に炭化物のまとまりを検出した。敷物の可能性がある。柱穴は、検出できなかった。床面中央やや北西に炉跡を検出した。赤褐色の被熱痕跡が見られたが、明確な掘り込みはなかった。



第294図 3次第1号住居跡・出土遺物

第124表 3次第1号住居跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	残存率 (%)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎土	焼成	色調	備考
1	土師器	小型壺	100	6.2	2.0	6.1	石英・結晶片岩・片岩	普通	褐色	小山川
2	土師器	壺	5	14.9		(4.8)	石英・結晶片岩	不良	褐色	小山川
3	土師器	台付甕	20			(6.1)	石英・結晶片岩	普通	にぶい褐色	小山川
4	土師器	台付甕	5			(5.9)	石英・結晶片岩	不良	にぶい褐色	小山川

遺物は、北壁北西付近から台付甕の台部3、西側中央から台付甕台部4が出土した。

1は、小型壺である。球形の胴部に広口の口縁部が付く。口縁部は内湾気味に直立する。

2は、折り返し口縁の壺である。頸部に粗いハケメが残る。

3・4は、台付甕である。3は、台部に二段にわたってハケメが残る。3は裾が「ハ」の字に開くが、4は、内湾する。

3次第2号住居跡（第295・296図）

E-22グリッドに位置する。調査区の西側南寄りに検出した。遺構の重複はないが、河川改修前の福川と釣堀の基礎地業によって壊されていた。規模は、南北5.98m、東西5.34m、深さ0.53mである。平面形は、正方形の竪穴住居跡である。長軸方位は、N-4°-Wである。

壁周溝は、攪乱部を除き全周する。柱穴は、壁面に平行して3か所に5本検出した。P4とP5、P1とP3は対になるが、建て替えではなく、柱の抜き取り穴と考えられる。炉跡を床面中央と、北側の2か所に検出した。両者とも焼土、被熱痕跡、炭化物を検出した。貯蔵穴は見られない。

遺物は、床面中央から器台2、東側から小型鉢1、甕7、台付甕8などが出土した。

1は、折り返し口縁の鉢である。口縁部は内湾しながら外傾する。外面には、縦方向に二段のヘラミガキを細かく施す。2は、器台である。三方に円孔が開く。器受け部中央にも穿孔がみられる。外面には、細かな縦方向のヘラミガキを施す。

3は、大型の埴である。口縁部は折り返し口縁である。頸部外面をハケメ調整した後、折り返し口縁の下をヨコナデで仕上げる。高環や台付甕の

脚部とも考えたが、口縁部内側に粘土の小塊などの付着物がないことから、埴の口縁部破片と考えた。

4は、高環の脚部である。埴部下端の突出を受ける穴が開く。

5は、壺である。この土器は、ラッパ状に伸びる口縁部を作ったのち、円孔を開けた球形の胴部と結合している。それは、口縁部外面に縦方向のヘラミガキを施し、その上に口縁部と胴部を圧着させた、頸部にハケメ、そのハケメを消すようにヘラミガキを丁寧に施す。

6・7は、素口縁の甕である。外面に粗いハケメが残る。

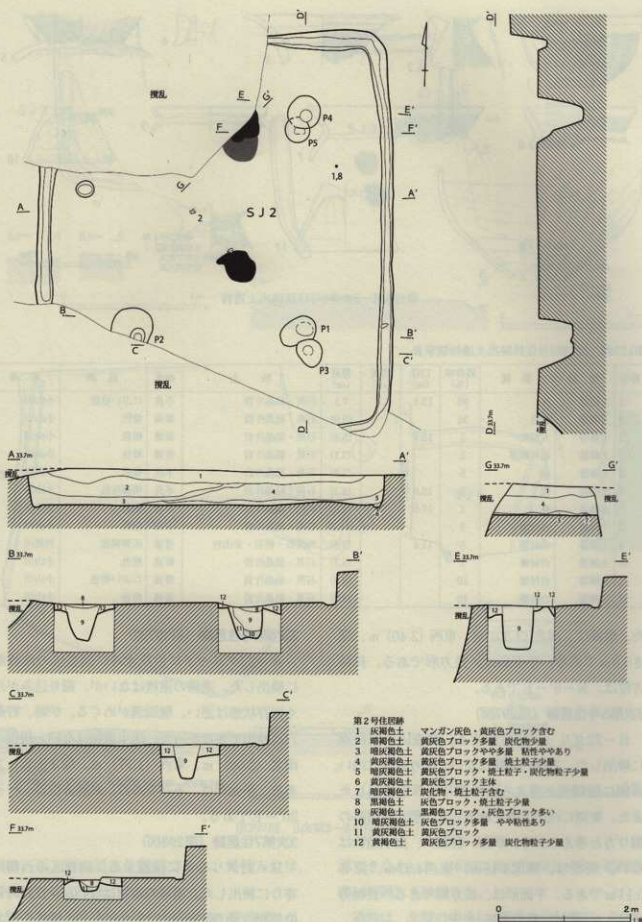
8～12は、台付甕である。8・11・12は、素口縁の台付甕と考えられる。8は、外面を粗く削られる。9・10は、「S」字状口縁台付甕である。器肉がとて薄く、台部の先端を小さく折り返す。

3次第3号住居跡（第297図）

B-22グリッドに位置する。調査区の南西端に検出した。遺構の重複はないが、釣堀の基礎地業で大半が壊され、南西の隅部だけが残っていた。壁周溝がわずかに残り、貯蔵穴、柱穴は見られない。遺物の出土はなかった。規模は、南北(4.60)m、東西(1.55)m、深さ(0.14)mである。平面形は、不詳である。長軸方位は、N-3°-Eである。

3次第4号住居跡（第297図）

A-22グリッドに位置する。調査区の南西端に検出した。遺構の重複はない。掘り込みは浅い。壁周溝がわずかに残り、貯蔵穴、柱穴は見られない。中央やや南側に炉跡を検出した。床面に二か所円形の被熱痕跡があった。遺物の出土はなかつ



第295図 3次第2号住居跡